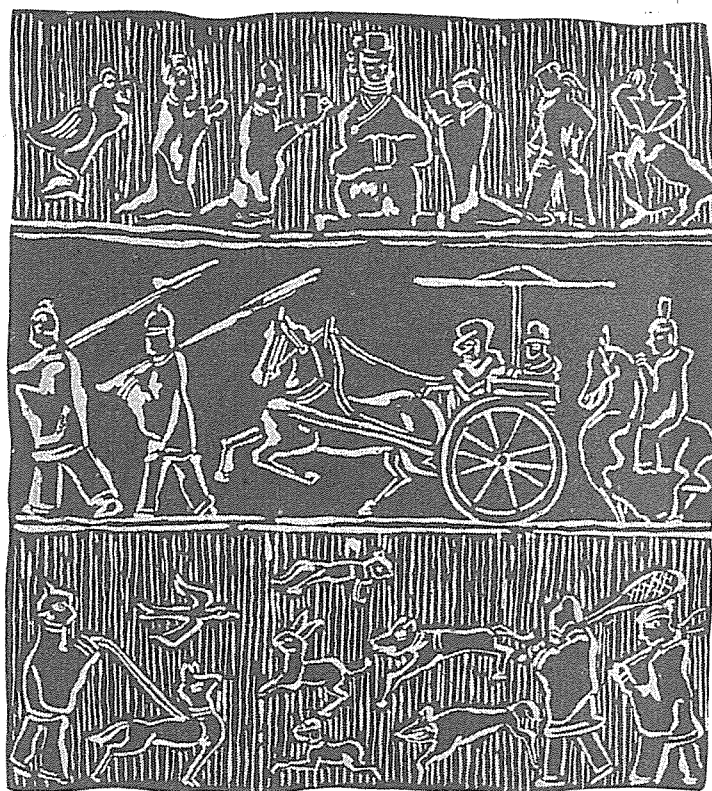


西學大報

第百六十四號

昭和三十一年十一月



關西學學報局發行

關西大學講師 辯護士 原田 鹿太郎 著

新會社法講義要綱

菊 判 上 製
二 八 〇 頁
定 價 二、五 〇
送 料 一 〇

最 新 刊

本書は辯護士たる本務の傍ら、永年關西大學において、商法の講義を擔任せられてゐる著者が、本年四月、新學年より始められた改正商法中、會社法講義の臺本として、最初分冊として發行せられたものを、今回完了と同時に合本とされたもので、改正商法の全條文を舊法のそれと對照しつつ、秩序整然たる組織の下に解説したものであつて、特に新舊兩法の相違點は著者の留意して明示したところである。よつて一般の讀者にとつても改正會社法において、從來の規定のどの部分が如何に改正されたかを、判然且つ確實に知るには絶好の指針といへよう。敢て學生のみならず、一般實務家諸氏の一讀を勧むる所以である。

野村 次郎 著
原田 鹿太郎 共著

商 行 爲 法

複雑多岐な商行為法の規定を、系統的且つ組織的に、いさ明かに解説せられることも、重要な學說、判例の全部を引用し、而もあくまで所論の簡明中正を期せられ、理論、應用兩方面に對する完全なる指針たらしめてゐる。

菊 判 上 製 二六〇 頁
定 價 貳 圓 貳 拾 錢
送 料 拾 四 錢

東京駿河臺中央大學前
振替 東京 一八二三八番
電話 神田 二二二八番

大 同 書 院

大阪北區梅田新道
振替 大阪 一三九七番
電話 北 一五六一番
番 三五三番

目次

汎運動と大ドイツ

矢口孝次郎 (一)

出征と凱旋式の故實

江馬 務 (五)

學内報

(八)

明治節拜賀式—詔書勅語捧讀式—武漢三鎮
陷落祝勝式—第十三回大學祭—人事異動—
かくほう抄—監査事務公用者

校友

(九)

校友總會案内—大阪支部秋季懇親會—福岡
支部—大連支部—岸和田在住校友會—明治
三十年卒業校友會—會員消息

學會消息

(三)

第十三回大學祭

(四)

學生パイロット

(六)

海軍豫備航空團について

(七)

關大スポーツ
陸上競技—野球—弓道—射撃—蹴球—籃球
—ラグビー—卓球—籠球—ホッケー—馬術
—拳闘—フェンシング—蹴球—雪上

學生

(九)

參院會—佛教青年會—基督教青年會—東亞
研究會—吟詩部—俳句部—講演部



汎運動と大ドイツ

教授 矢口孝次郎

交通機關の發達は世界を縮小せしめたと言はれるが、現代の世界が更に他の幾多の諸原因によつて愈々縮小せしめられつゝあるのはわれわれの日々切實に感ぜしめられてゐるところである。殊に殆んど時を同じうしたところの、極東に於ける滿洲事變の勃發及び歐羅巴に於ける獨逸樞軸の結成以來、急激に世界が縮小されたのを感じるのはわれわれのみではあるまい。曾て「英國の國境はライン河に在り」と宣言した英國は、チエッコ問題が起ると共にその國境が更にチエッコにまで押し進められた事を認めざるを得なくなり、その結果はかの老宰相チエンバーレンの行動となつて明示された。またわれわれは極東に於いて「隣邦ロシア」を有すると共に、皇軍の漢口廣東への進軍によつて英國とも境を接するに至つた。そのことは單に比喩的に言ひ得るに止らず、今や現實の「隣邦イギリス」の出現した事を意識せずには居られない。例へばかくの如く、世界の縮小は各國民をして愈々密接に接觸せしめつゝあるのであるが、言ふまでもなくその要因は一に止まらない。そこには政治的經濟的文化的乃至軍事的要因が相互に作用しつゝ働いて居るであらう。さてまた他方この現象は幾様にも解釋し得る。例へば曾てある種の理論家は「帝國主義」の理論によつて—然もそれ一點張で—この意味深き現象を説明せんとした。また近くは「ブロック經濟」なる概念によつてこれを把握せんとする試みがなされた。而してこれらの解釋は、それがジャーナリズムの玩具と化するほどの流行すら見たのであるが、これらの解釋如何にかゝわらず、現實はいよいよ多岐に且つ微妙に進展しつゝある。いまこゝに、かゝる現象を、各國民乃至民族が、より廣範なる共同の利害圈に包括されて行く一般的過程のあらわれであると觀るならば、そこにまた一つの解釋もあるわけである。かゝる共同の利害圈なるものは、然し乍ら、それを成立せしめんとする要因乃至目的によつて種々交錯するものであり、且つその組成の強度に種々の差異が存する事は言ふまでもない。またその成立と言ふも、それは一つの傾向或は運動に過ぎない場合も存する。こゝに述べやうとする汎運動 (Pan-movement) は、實にかゝる傾向の一つであつて、前世紀よりこれら諸傾向の中に在つて最も顯著なる主流の一つをなしてゐたものである。而して本年に於ける最大の歴史的の出來事の一つであるナチ・ドイツの擴大、即ちアンシュルツスとズデーテン獨逸人地域の合併は實にこの汎運動の一つの結實と認め得らるゝのである。こゝにその過程を跡付けたいと思ふのであるが、先づ汎運動とは何であるかを概観し度い。

一般に汎運動とは、共通乃至類似の言語人種傳統等により、また時に他の條件によつて、結合せられた集團のソリダリティを促進せんとする政治的文化的運動であると言はれて居る。従つて廣義に於いては、古代のペルシャ、マケドニア、ローマ等の諸帝國より、十九世紀の英帝國に至る大帝國の形成は、悉く一つの汎運動であると言へよう。然し乍ら、より極限せられたる意味に於いては、そこに明白なる固有の目標或は運動の限界が認められなければならない。この意味に於いて觀るとき、その歴史上の表現は、大體汎國民運動、汎宗教運動、汎大陸運動の三つの類型に區別されると言はれる。

さて、その中最も力強く表現せられてゐるものは、周知の如く汎國民運動であつて、發生的には十九世紀以後に於ける國民運動の擴大せられたるものである。殊にこの運動を基礎付け促進したるものとして十九世紀及び二十世紀に於いて顯著な發展を遂げた人種理論の存する事を忘れてはならない。然し乍ら汎國民運動は、その起源に於いてまたその目的に於いて、必らずしも一樣のものではなく、時には全く相反する性質を有するものさへ存在する。汎國民運動の中先づ最初に指を屈すべき明白なる運動は、汎ドイツ主義及び汎アラブ主義に見らるゝ如き、同一の言語と國民性とを有する人間を現實の一國家に結合せんとする運動である。然し乍らこれは眞の意味に於いては國民運動である。それは常に基本となるべき既成の國家の中に、その國民に屬すると認めらるゝ外部の者を包含せんとする運動となつて表はれる。第二の型は、むしろ超國民運動とすら言ひ得るもので、言語の同一性を缺くにもかゝらず、共通の人種たる事に基いて行はるゝものである。而して基本的にはその運動の活力を國民的統一或は、その人種の解放のための闘争から得てゐるのが特色であつて、汎スラヴ主義、汎ツラン主義、汎アフリカ主義等に見らるゝものがそれである。汎國民運動の第三の型は、上述の兩運動に見らるゝ如き國民的統一運動乃至所屬人種の解放運動とは無關係であつて、その主たる目標は、人種の移住或は文化の移入の結果として、共通の言語傳統を繼承する諸國民の間に文化上の親密關係を育成せんとするにある。従つて政治的領域に於いてはたかだか外交上の協力を目ざす程度のものであつて、例へば汎スペイン主義、アングロ・サクソン主義（汎アングロ主義）等に見らるゝ如く、漠然

たる汎國民主義の類型に過ぎない。

汎運動の第二の型である汎宗教運動は、汎運動の中に於いても最も漠然たるものであつて、政治的社會的領域に於いては單に間接的重要性を有するに過ぎない。これに對しむしろ注目すべきは第三の型即ち汎大陸運動である。それは現在の段階に於いては多岐且つ不完全なる形態であるにせよ、とにかく國民的割據主義の勢力を克服し、諸多の國民性乃至文化によつて分裂せしめらるゝことなく、共同利害の意識によつてかためらるゝ一つの政治的秩序を獲得せんとするものであつて、従つて前二者の運動とはむしろ對立的關係に在るものとも言へよう。而してこの場合に於ける統一の原則は言ふまでもなく地理的のものであつて、例へば汎ヨーロッパ主義、汎アジア主義、汎アメリカ主義、ラテン・アメリカ主義等がその代表的ものである。然し乍らこの運動は、現在の發展段階に於いては何れも未熟なものであつて、實際に於いては、或は帝國主義的侵略の口實に用ひらるゝと言はれ、或は外國勢力に對する共同工作の一時的必要に順ずる手段なりと言はれ、また更に廣く割據的國民主義を離脱して世界聯邦と言ふが如き理想を目ざすものと言はるゝ等、その解釋或は批判は區々である。またその將來に就いても、それが一個の理想としては世界平和の基礎たる世界統一と言ふ究極の汎理想に結び付くものであるが、現實の諸狀勢を考慮に入れるとき、近き將來に於いてその全き意義を實現し得るや否やは疑問とされて居る。

汎運動として認めらるゝものは、以上の如くその目標に於いて型に於いて多岐であるが、その現實は一層複雑である。然し何れの型をとるにせよ、また如何なる目標を有するにせよ、それらの運動の各々が現在の世界の各所に於いて進展しつつあるのは現實である。またその中最も目覺しいものが汎國民運動及び或國の指導の下に行はるゝ汎大陸運動であることも現實である。われわれは次に、前者の一としてのナチ・ドイツの擴大の基調に存する汎ドイツ主義の如何なるものであるかを一瞥したいと思ふ。

三

ナチ・ドイツは本年に至つて、その多年の宿望たるオーストリア及びズデーテン地域の合併を、各國民の驚倒しつゝある間に成しとげたのであるが、想へばこの日はドイツ人にとつて長い間の待望の日であつた。それは古くドイツ統一運動の

起ると共に問題の重點となり、爾來ドイツの運命に結び付けられて來た。こゝに汎ドイツ主義との關聯も認められるのであるが、そのためにわれわれは暫く眼を過去に轉じて見る必要がある。

人も知る如く近代の統一國家としてのドイツの成立は、イタリーの場合と並んで新しいものであり、從つて凡ゆる點に於いて、それに先んじて國家體制を整へた英佛と異なる運命を負はされて居た。その事は先づ國家の生誕、即ち統一運動の勃興の姿に於いても認められる。即ち十九世紀に至つて國家的統一を有つべくしてそれを阻害されて來た國々の間に、統一の機運が熟成されて來たが、それはむしろ夢想的なまた或意味に於いては熱情的な統一運動となつて現はれた。かかる國民主義運動は後の時代のそれと異なる特質を有してゐるが、それは例へばイタリー國民主義の祖とも言ふべき青年イタリー黨の指導者マチニによつて起された運動に見ることが出来る。この運動は國民的統一を目的とすると共に、その國民の自由と獨立とを求めんとするもので、むしろデモクラシーの主張と結び付いてゐるところにその本質がある。この事はドイツに於ける國民主義運動に於いても例外ではなかつた。即ちドイツに於ける國民的統一運動は、何よりも先づ四十に近い諸邦に分裂されて居た封建的諸侯國を解消せしめねばならず、從つて統一運動は本質上革命運動とならざるを得なかつたのである。而して他方この統一運動は同時に汎ドイツ主義との結び付きを有すると言はれるが、その事は支持者の主張を顧ることによつて明瞭となる。先づ初期に於いては彼等は自由と團結の精神に富んだ祖先の血の貴さを昂揚し、ゲルマン文化及び民族の優越を主張して全ドイツ人が合體して西歐を指導すべき事を説いた。然し乍ら汎ドイツ主義の主張はむしろリストの如き經濟學者によつて具體的に述べられてゐることを注目しなければならぬ。彼等は政治的側面のみならず、經濟的統一に關しても後進國たるドイツの状態を観察し、そのために獨自の政策のあるべきことを主張したがその際ドイツはラインより黒海に至る包括的な經濟組織を結成すべきことを強調した。ナチ・ドイツによる中歐の合併と、その後には於けるドイツ勢力のバルカンへの進出を觀るとき、——例へば最近のチッコ、ハンガリー間の紛争解決を見よ——この事がドイツ民族の運命であり使命である事すら感ずるものである。

さてこれらの主張によつて支持され促進された統一運動は現實に如何に進行し

たか。それは必ずしも理想を描くが如く實現しなかつた。先づ統一運動の前には、プロシヤとオーストリアとの對立と言ふ大障害が存し、この障害をめぐつて統一運動は二つの主張に分れた。即ち一はオーストリアを含む大ドイツ統一を主張するものであり、他はそれを除外しプロシヤを中心として統一を企畫するものであつたが、ビスマルクの計畫は前者の途を進んで一八七一年に新ドイツ帝國は出現した。かくて實現したるものは、汎ドイツ主義の理想から言へば、むしろそれから離れたものであつたのである。然し乍らそれ以後、汎ドイツ主義に結びついて居た東進論の政策は依然として、否より強化されて、踏襲された。即ち東方に對するドイツの植民とスラヴ地域への進出である。實に一八九〇年に設立された全獨協會の主たる目標は植民擴大を促進するにあつた。從つてこの意味に於いては、當時の汎ドイツ運動は單に名のみのものであつて、眞實はイギリス、フランス、アメリカ等に見られた帝國主義的傾向と異なるところはないと言はれる。然し乍らかかる政策の進展は、從來經濟的に——廣く言へば國力全般に於いて——比較的遅れてゐたところのドイツが、統一の完成以來急激に世界の指導的産業國に躍進した事實を反映せるものであつて、汎ドイツ主義が、單なる理想的な、或は學者の理論上の、計畫を離れて來たのも必然の結果であつた。然しまた他面より考へれば、この傾向は遂にドイツをして大膽の責任を負はしめらるゝ程の窮地に陥らしめた一原因ともなつた。

即ち帝國完成後のドイツ國民は新興の意氣に燃へて、凡ゆる方面に於いて先進諸國殊にイギリス、フランスを凌ぐんとする努力を續け、また現實にその結果を作り出した。ビスマルクの保護政策以來農業工業に於いて異常なる發展が見られ更に國內産業の發展は商船の驚嘆すべき増加と相俟つて、外國貿易の領域に於いても、既にフランスを凌駕してイギリスの覇權をも脅さんとする勢を示した。然るにかゝる國力の發展は、當然に海外にも及ばねばならなかつたので、それはウィルヘルム二世の「新航路」の政策となつて世界に宣言された。またそれを基礎付けるものとして陸海軍の擴張の行はれた事も言ふまでもない。かくの如き經濟的及び軍事的方面に於ける國力の發展が、他方またその絢爛たる文化的發展に呼應して居る事は、われわれが科學文藝の領域に於ける獨逸の貢獻を顧れば理解される。かくて二十世紀初頭に於けるドイツ國民は、その異常なる國運の發展に伴つて、自ら神の選民たりとの信念を抱き、その文化は全世界を光被すべきもので

あるとの自信をすら獲得するに至つた。かゝる自國の文化と國民性の昂揚は必然に汎ドイツ主義を自覺したのであつて、それは遂には世界に於けるドイツ國民の合體を主張するに止らず、一部にはドイツの必要とするところは凡てドイツの領土としてその支配下に置くべしとする極端なる要求さへ現はるゝに至つた。例へば汎ドイツの要求するものは、ドイツ系の人民の居住する凡ての國々例へばオランダ及びデンマークであり、また曾てドイツ的であつた國々例へばスイスであり、またドイツ人の居住する國々例へばブラジルであり、而してドイツ人の慾求する一切の地域例へば全世界！であると言ふが如き要求が説へられたのである。

然し乍らかゝる行き過ぎた汎ドイツ主義的主張は、やがて大戰を惹起せしめた一因となり、また惨めな結末を生み出すことゝなつた。勿論この間に在つても殊に大戰中、正しきドイツの發展を希ふ人々によつて、かゝる意圖乃至計畫が決して全ドイツ人の懐くところでない事が繰返して主張され、例へばアッシャーの「汎ドイツ主義」の如き著書はドイツを誤解する「グロテスクな想像」に過ぎないことが力説されたのであるが、——而してまた、ドイツの對外政策乃至世界政策がむしろイギリス、ロシア、フランス等のそれに比して控へ目のものですらあること、ドイツの慾求するところは他國の例に倣つて自國の發展に相應する「太陽の照る場所」を求むるに過ぎないことが説かれたのであるが、假令誤解に基くにせよ事實の發展は如何ともなし得なかつた。而して大戰の結果は慘めにも、既にドイツ人の居住する地域すらドイツから切り取られて、望むところとは逆に縮少せるドイツとならなければならなかつた。他の諸種の制裁を考へるときヴェルサイユの法廷に於いてドイツに宣告されたものは實に死刑の宣告にも等しきものであり、然もその後氣息奄々たるドイツをすら列國殊にフランスは監視して赦さなかつたのである。

かゝる状態に置かれたドイツの近き將來に於ける復興は、當時に於いては全く夢想出来なかつた。然し乍らそれが實現したのである。言ふまでもなく、大戰直後に於いてはその打撃を反撥して立ち上るための力は微弱であつて、國內に於ける經濟上政治上の困亂は免れなかつたが、數年の後には明らかにその可能が確認された。この間に於いて幾多の傑出した政治家學者の努力がドイツ復興に貢獻した事は認めなければならぬが、かゝる大事業は二三の區々たる政策によつて達成され得るものではない。即ちそれはヒットラーとその指導下に在るナチスに託

された仕事であつたのだ。

その事業が如何にして成し遂げられたかは今更説くまでもない。こゝにはそれが汎ドイツ主義の復興と如何なる關聯を有つかに就いてのみ一言述べて置くに止める。バーンズによればナチスの外交政策の主たる目標は次の三者であるが、それは言ふまでもなく單なる外交政策の目標ではなくて、ナチスの成立を基礎付けたものであり、全ドイツ人の願望であつた。即ち

一 所謂戰爭處罰條項の否認

二 中歐に於けるドイツ民族のドイツ帝國への歸屬、ドイツ植民地の返還要求

三 軍備平等權の要求

である。然るにいまやこれらの各々は、植民地の返還を除いては、悉く達成されてナチスの偉業は將に完成せんとして居るのであるが、その中、中歐に於けるドイツ民族のドイツ帝國への歸屬の要求こそは、ナチス下に於ける汎ドイツ主義の復興を意味して居る。前述の如く汎ドイツ主義は一時帝國主義的侵略主義と云ふ世界的傾向と絡みあつて發展の最高潮にあるドイツをして墜跌せしむるに至つたのであるが、その理想そのものは絶ゆることなく、ナチス思想を基礎付けるものとして復活し、その政策の中にとり入れらるゝに至つた。周知の如く汎ドイツ主義は反セミチズム及び國家社會主義と共にナチス思想の三大酵母であつたと言はれる。殊に汎ドイツ主義はヴェルサイユ條約から生じた排外思想に動かされて會てありし如き革命的熱情を帶ぶるに至つたが、更にこれに神秘的要素を注入して居るものが、第三帝國建設の理想である。一九三三年の國民主義革命に参加した幾多の集團は、ヴェルサイユ體制の下に於ける中歐及び東歐の國境を抹殺し、スラヴ人始めその他の人民を一大聯邦の中に包含することこそ、第三帝國の使命であるとの信念に動かされて居たのである。

その遠大なる理想には或は未だ距離があるにせよ、とにかくナチ・ドイツは汎ドイツ主義に基く第三帝國の根幹を完成した。今やその新なる勢力は中歐のみならず全歐の問題に就いて強力なる發言を要求しつゝある。この力が今後、ヴェルサイユ體制の中殘されたる部分に對し如何に働らくかは、將來の歐洲の歴史のみならず世界の歴史を決定する有力な要因となるであらう。東亞に於いて、等しく決定的な勢力を有するに至つたわれわれは、その動きを注意深く觀察してゐなければならぬ。(一三・一一・五)



出征と凱旋式の故實

江 馬 務

一 近來應召者の家庭では大抵 大元帥陛下の御尊像を掛け、神酒を供へ奉り、愈出發の時、鯛と昆布で冷酒を飲み、旌旗を押し立て、萬歳裡に出て行くと親戚友人知己が送るといふ形式を取つてゐるやうである。中には樂隊を先頭にしてゆく派手なものが、又應召者などがトラックに乗つてゆくといふ大層なものもあるといふ。そして身に纏ふのは千人針の木綿や、知人の名を書いた日の丸旗などである。

この出征の風俗は日清日露の兩戦争の頃から發達した形式なのであるが、しかし昔の出陣の故實に由來してゐる所も多いので、爰に昔の出陣の故實と千人針の由來を述べて見よう。

二

さて昔武將の出陣には甲冑を着して主殿の中央に南を向いて床几に敷皮を敷いて踞し、白毛の所を踏む。

この時甲冑に身をよるゝる扈從の軍兵は三種の肴といふを出す。これは中古は高杯に載せたものであるが小笠原伊勢の流派では、折敷（白木の膳）の上に手元に近い方に盃臺と盃、それに近く向つて左手に三つ重ねの盃これは雲土器を用ひる。その右には小角といふ小さい板角切の臺に昆布三切か五切を長方形に、切

つて横に置く。但し三切置くのを身切れといつて忌むといふ説もある。次にその向う左（盃の上）へ小角の上

に鮑魚斗五切を昆布と同様に据え、その左（昆布の上）へは小角に搗栗五つを置く。次に同じ饗宴の軍兵の酌のものが長柄の銚子に酒を入れて持ち來り、武將の前につくばひ酌するので、此の場合決して膝をつくことはない。武將は先づ鬚斗を右手で取つて左手で持ち、細い方から太い方へ口をつけ、太い方を喰ひ切つて、その食ひ残しは折敷の左の角におく。さて上の盃を兩手でさし出せば、酌人は一度、二度、三度と三度に酒をつぐ。三度目は少し多くつぐ。武將は之を飲み、了つて鬚斗の前横に盃を置く。次に搗栗の中央のものを喰ひ、前同様二番目の盃で三獻、了つて前の拾盃の上に重ね次に昆布を取つて、その兩端を切つて中をくひ切り、下の盃で又三獻、元の盃の位置に納めるかく盃に三度つぐこと三回で三々九度の盃となる。我國では中古以來奇數を以て慶たしとし偶數を忌む思想から以上述べた數字がすべて出てゐるのである。

さて以上の三種の肴の意義はといふに、鮑魚斗は鮑の實を打ちのして扁平としたものであるから、鬚斗といふのであるが、これは敵を討つに通ぜしめ、搗栗は勝栗に通ぜしめて勝を祝ひ、昆布はよろこんぶに通ぜしめ、これで「敵を討つて勝つて喜ぶ」といふ意に通

ぜしめるのであつて、凱旋の時にはこの三種の肴の置く位置を變へ、搗栗と鬚斗の位置を轉ぜしめ、勝つて討つて喜ぶの順序とするのである。酌人はこの場合廻ることあれば左より廻り、右廻りはせず、又一切退くことをしない定めである。さて祝終つて中門を出で太刀を佩き矢を負ひ、弓杖ついて馬に乗り、左手に弦を下にして弓を持ち手長の旗を押したて慶たく出征するのである。

この手長旗は一丈二尺の布を中央で縫ひ合せ下三分の一を縫はず上に八幡大菩薩と記し二つ引を描いたのを古式とする。竿頭には錦の守袋を吊すこともあつた因みに現今鯛を用ふるは鮑魚斗が現在のものは他の貝を以て粗製し、食へないからであつて、萬一鯛に替へた時も鮑同様細長く切るを以て正式とするので足を喰ふなどは縁起がよくない。又現在の禮式はすべて小笠原流の禮道に準據してゐるが、鮑は命長いものであるから、縁起を祝ふ爲め昔は反物、紙を贈るにも鮑貝を添へて贈つたものであつた。それが鬚斗になつてからは、長鬚斗に易へ、更に一轉して折紙に包み、その折形にも眞行草の三段あり、今菓子などの贈物の鬚斗は即ち草の形で往々折紙の中の肝心の鬚斗が無く折紙ばかりついたまゝで贈られるのはこれこそ笑止の沙汰である。

この出征の時、氏神や武運長久を祈る爲め八幡の社に參詣する。この時は下馬して簾から鎗矢一本を抜いて神に供へ、神酒を戴いてめでたく出征するのである。又室町時代には出陣の時、必ず京の郊外桂の里から桂女を招いて呪文祝詞を誦せしめる吉例になつてゐた桂女については嘗て私の主宰する月刊誌「風俗研究」

に連綴し、近刊「桂女資料」「京阪」「財政」にも拙稿が掲載されてゐるが、この桂女といふは古代から山嶺ある桂の名家の妻女で、かの文藝役に秀吉出陣の時も桂女を招いて呪文を稱へさせた先例もあり、又婚禮、出産などの祝事にも必ず招いたものであつて、彼女等は神功皇后より賜はりし御腹帯を頭に巻いたのを故實として白布の桂包を以て頭を巻き、被衣を着して出向、繰起視をしたものであつた。その呪文祝詞は今では研究中に属するから追て發表の機があらう。

三

次に千人針のことに移らう。

近時路頭に立つて、通行中の千人の男子に千人力の力を乞ふ男子あり、千人針の一縫を千人の婦人に強要する婦人あり、見るからに涙ぐまれる所謂軍國の情景を顯出してゐる。この千人針は日露戦争の時分に一部の人が始め出されたといふことであるが、眞に流行したのは前の上海事變の時であつた。この千人針を迷信と目してゐる人もあるが、私は強ち全部迷信と考へたくない。元來この「千」といふ數は佛教で多數を代表する常套語で千手觀音千體地藏、千日講、千垢離お千度といふ如きである。それが移つて多くの方面にも用ひられ、武人界にも影響して千段巻、千人斬千太刀斬、一騎當千、千成孤軍など千の文字を用ひ古してゐる。この千人力、千人針の千も恐らくこの邊から生み出された數と思はれるのである。

次に何故白木綿の袷に縫ふかといふことであるが、これも減多に絹や羅紗はなく、皆白地の木綿に限つてゐるやうで、たゞ絲の色が大阪は赤く、神戸は黄、京は青が多いといふことである。その文様は粒々が丁度

鹿子の芥子のやうに規則正しく羅列してゐるのが多いらしい。この白木綿に粒々の規則正しい縫は、果してどこから來てゐるかといふに、私は之を以て戰國時代の兜の受環や綿甲や甲冑の下表から來てゐると斷言するを憚らないのである。

元來朝鮮支那共に古代には綿甲といふものがあつたこれは綿人の鍛で、綿をむく／＼と入れ、絲で龜甲形に織ち、或は唾刺にしたもので、之を百重刺と稱し、矢石を通さないといふ特効があつたのである。矢の如き勢込んで突刺さる武器も、亦人を刺し或は斬る刀槍も固いものにはさつく當るが、柔かいものには反つて力が抜ける性質のもので、これ即ち柔よく剛を制すといふ原則に依るものである。さればこの綿甲はこの原理から生み出され、相當効果があつたらしく、日本でも奈良朝に採用されてゐたが、平安朝には衰へたのである。しかし支那では元時代にも之を用ひ、又明でも採用してゐたので、元の襲來の繪卷たる御物蒙古襲來繪詞(竹崎季長詞書、土佐長隆筆)にも元兵は皆洋服のオバーコート^①の如き綿甲を着てゐる。この繪卷を見ると、綿甲に矢が刺さつたまゝで活動して居る兵士もあり、斬られてゐる兵士は頸の邊の外へ露出した所をやられてゐるところを見て綿甲は刀矢に抵抗力の多いことを雄辯に物語つてゐるのである。

この原理を應用して綿甲に做つて出來たのが戰國の具足である。尤も當時は鐵砲が應用され、桶皮など鐵板で作つた具足が出來たのであるが、この具足は鐵砲に對照して出來たものだけに彈丸には無害で、かの濟南の役に金丸中尉が敵の彈丸雨霰と降る中をものともせず、祖先傳來の具足を昔の大將然と着込み、目がけて

打出す彈丸に幾つも當りながら平氣の平左で砲臺まで登りつめ、先登第一の勳功を立てたのは記憶の新たな話である。これと思ふと昔の綿甲、戰國の具足は矢石には先づ大丈夫と保證されるから、私は先づ軍當局に向つて差し當り此の具足の採用を希求せざるを得ない。この具足は鐵製であるから大分費用はかかるだらうが假令少々かゝつても忠勇の將士の命に代へられない。飛行機一臺の費用で何千出來るか分らないのであるし又着用の人にも少々重くて働きにくい、それでも現今の戦争は白兵戦は少く、科學の戦争であり、假令又青龍刀の一撃があらうとも大丈夫だから重いのを我慢して着て行くことが出來たならば如何に幸福かと思はれる。この甲冑の形式に就ては私には更に別稿がある軍當局にはいろ／＼と指示相談に應じたい。

次に綿甲、これも一つ具足に次いで一考して貰いたい。綿甲は綿をむく／＼と入れ龜甲形に縫ひ、中に粒々か十形の縫があるものである。先年私は盛岡の石原氏が所藏されたのを寫しておいたものが手元にあり、同氏は唐甲といつてゐられたが、私は日本のものと思つてゐる。色は紺色の布であつたかと思ふ。これを應用して戦争では鎖襦袢か、綿入を着込む。よし綿入の衣服でなくとも具足の鐵板のない間隙には假頭輪、脇引、肩當、膝の十玉頭など稱して縫や刺しこの綿入をあてる。この綿入は布などで、縫ならば大抵龜甲形に縫ひ、その中に十字形の縫をするか、或は粒のやうなものを作るもあり、又百重刺もある。その縫ふには千針縫ふと千人力を得るといふ習慣もあるやうで、刺にも百重即ち多數に刺すといふことがあるからこれが一轉して今日の千人針となつたものに相違なく、綿入の

布の代りに單の木綿、龜甲十字の縫や百重刺の代りに粒形、千針の代りに千人といふことになつたものであらう。

序にいふが、假令綿入でなくとも布一重でもそれだけの効果があらうといふのは、それを應用して出来たものに昔から慕や保侶がある。この慕は布で作つてあるが、陣屋に之を張るのは、これを通して來た矢や丸は力が弱まり、損傷が少いからであつて、保侶も亦同一の原理に基き、之を前進の時には馬にくより身を保侶の蔭にして進軍する時、若し萬一矢や丸が貫通しても大に力が弱くなるので、これから考へると、私は保侶の如く布を翳してゆく方法もよからうかと思ふが、之を着るのも、之に次いで効果があらう。しかし私はそれよりも昔あつた柄の採用を當局にお勧めしたい。具足を着なくとも鐵柄を手に持ち、之を翳して進み、射撃には鐵柄の穴から覗くといふ風に行けたら尙更面白からう。又綿入をうんと着込み肩から胸腹大體骨邊までを蔽ふたら布一重の千人針よりも數等効果があらう。近時綿を着て死を免れた貴い經驗談も聞いたことがあるから、相當な効果はあらうと信ずる。

目下鐵兜が出来てゐるが、あれは彈丸が貫通した例がある。先づ以て總體に安心とはいへない。兜も今少し改良して、昔の日根野兜にでもしたら効果は一層あらう。又近來は日本刀が復興されて來たのは會心のことである。白兵戦は何といつても日本刀の斬れ味に限る。これで見ると武裝は漸次昔に返るといつてもいい。故にこの趨勢から今一步乗り出して昔の具足、柄、縮入、保侶の復興が出来ないものか、それに昔は紙子といつて生漉の和紙を鐵下に着込んだこともある。輕く

て暖く強くて安く。大變重寶であつた。これも冬期に於ける將士の下衣には是非とも當局の一考を煩はしたい。

京都御所・修學院離宮拜觀

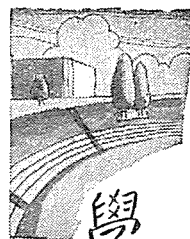
(國語漢文學會)

十月二十九日、江馬先生を煩はし御所、修學院離宮を拜觀する。十時半小雨そぼ降る中を離宮に至る。承應年間幕府献上に係る名苑。下の御茶屋に入る。花菱透を以て茶人絶賞の御成門、螢清水、袖形、櫓形燈籠等、等。壽月庵には駿駒の虎溪三笑圖、古風の張附床があり、澁い壁色に丸木の長押。泉の聲は雨に和して俗耳を洗ふ。藏六庵には後水尾院の宸筆を掲げ、四條派の粹豊彦の泊の繪がある。中の御茶屋に向ふ。雨に煙る山々を右手に小松並木を約二丁、雨脚漸く緊くなる。庭前狹しと這ふ松が枝は、一名には隠れぬ一葉ならぬ傘松。こゝは後水尾院内親王緋宮の御座で、元東福門院の御化粧殿。三重二重簾棚は形よりその名を貰ひ壁には八景詠草を散らし、袋戸は友禪の筆と傳へる。花車七寶の釘隠も珍しい。杉戸は一は具慶の祇園鉾、一は應樂の鯉魚圖である、具慶が綱を加へた程の名畫四時の風物を描いた四季間、樂只軒間、探信の吉野龍田の繪がある。上の御茶屋に向ふ。又二丁、隣雲亭と呼ばれる「窮邊」の額は院の宸筆で、眺望絶佳、唯遺憾。浴龍池を眼下に、萬象塙を俯瞰する。一枚石の千歳橋を渡す。三隈島があり、こゝより比叡を富士と仰ぐといふ。止々齋、御遊舟着の跡、雌雄の瀧の名残を惜しむ。

午後二時、御所に参入、光榮の歴上拜觀を許されて

今忠勇無双の出征將士の方々の爲めに聊か風俗研究の立場から、以上の一篇赤誠の獻策をなし、學問報國に資したいと思ふ。

諸大夫の間に入る。安政元年成る所。櫻間、鶴間、虎間と進む。虎間は所謂關白直廬の間である。渡廊に入ると、これより平安期の古態を存し、左手に御膳宿があり、「敵いひのゝしるゝ」正弘の姿が浮かぶ。右手には主殿宿がある。廊の果には駒障子、金岡の放馬圖があり、夜々萩戸を食荒したといふ傳説が残る。殿上間に入り、櫛形窓、日絡箭、臺盤、御椅子などを拜する。庭前空穗柱に家貞の姿を偲び。果に年中行事障子。清涼殿に参進、鳴板の音を懐かしむ。石灰塙がある。母屋を拜するに、登御座には四季御屏風、大床子御帳臺、獅子、狛犬。夜御殿も僅かに拜する。二間の脇には昆明池障子を立て、御前の漢竹吳竹は縁を競ふ雨に増る御壽水には曲水宴、瀧口の名對面を憶ふ。弘微殿、藤壺の上御局には、光源氏の物語を、手長足長圖には、清女の「にくみなどして笑ふ」姿を慕ふ。御湯殿、御手水間、朝餉間、臺盤所、鬼間も遙かに拜し黒戸を見ては、「小松の御門のたゞ人におはしまし、時」を偲び奉る。馬道を渡る。紫宸殿には高御座を拜する。歴代即位の大典はこゝで擧げられる。通入障子があり、支那聖賢三十二人の像を飾く。左近櫻、右近橋、承明門を仰いで、重盛、義平の角逐を彷彿する。軒廊に龜卜座、陣座を望み、露臺に出る。小御所には孝明天皇御好の御庭があり、有名な小御所會議の玉座も拜する。次に讀み、詩に懐かしむものを、今面りにして、江馬先生の微細の御解説。誠に「この時にあへらむものはこれを喜び、この道をあふがむもの」國漢學徒の幸を感ずる。



學内報

明治節拜賀式

十一月三日、明治節には學部、豫科は午前十時より専門部は午前十一時より夫々拜賀式を舉行了した。

國民精神作興に關する詔書 捧讀式

十一月十日、國民に賜りたる詔書勅語の聖旨を體し學部及び豫科は午後一時、専門部一部は午後一時同二部は午後五時三十分より、その捧讀式を舉行了した。尙捧讀式直後、學部及び豫科は陸軍少將森本義一氏専門部は陸軍少將細木研氏の講演あり終了後教職員との懇談會を催した。

武漢三鎮陷落祝勝式

舉國待望の武漢三鎮陷落の慶びは廣東陷落の慶びをも兼ねて其の祝勝式を、學部及豫科は十月二十八日午前九時専門部一部は十時にグラウンドに舉行、夫れ々市中行進旗行列をなし、専門部二部は午後五時半舉式六時提灯行列を行ひ祝意を表した。

第十三回大學祭

十月二十三日(日曜) 午前九時より千里山運動場にて式典並びに體育大會を別項の如く舉行了した。

人事異動

教練囑託(學部)	橋口 丹後
教練囑託兼生徒主事補(専門部)	峯 岩太郎
任關西甲種商業學校教諭	末次 禮三
解職關西甲種商業學校講師	川上 義治

がくほう抄

▽中村良之助氏(教授) 十月二十九日並に三十日、東京一ツ橋講堂に於て開催の第二回人口問題全國協議會に「我大陸政策の個性」と題し講演された、尙全會の建議案特別委員に指名囑託さる。

▽岡本勝治郎氏(講師) 三島郡吹田町泉町三二〇四、福田三次方に轉居(電話吹田二二)。

▽山脇 毅氏(講師) 東成區東桃谷町一丁目五八一六に轉居

▽平尾 末吉氏(歩兵大佐・配屬將校) 住所三島郡吹田町三一九六、阿坂方

▽橋口 丹後氏(學部學生課) 住所住吉區昭和町五丁目一九

▽峯 岩太郎氏(専門部學生課) 住所此花區朝日橋通一丁目八ノ一

▽末次 禮三氏(關甲教諭) 住所住吉區北田邊町三〇

應召軍務公用者 (其の九)

戰死

宮崎 藤平氏(學生主事補) 豫備役陸軍歩兵中尉、小隊長として昭和十三年十月九日信陽縣九店附近の戰闘に参加中、名譽の戦死さる。

遺族住所は靜岡縣小笠郡和田岡村高田一一一

平松 勇氏(昭一一大法) 北支戰線にて名譽の戦死

遺族は此花區朝日橋通一丁目一九、嚴父繁十郎氏

泉本 俊男氏(昭一一專二法) 昭和十三年九月十七日名譽の戦死

遺族は岸和田市南上町、嚴父治一郎氏

上岡 祝太氏(昭一二專二法) 昭和十三年八月二十四日、三十甫に於て名譽の戦死

本籍地岡山縣邑久郡幸島村西幸西七三

新 茂秀氏(專二法二) 昭和十三年七月九日江西省湖口縣流澌橋に於て名譽の戦死

遺族は鹿兒島縣大島郡笠利村屋仁五二、嚴父茂熊氏

竹中 力氏(專二法一) 昭和十三年江西省瑞昌縣キリン山附近の戰闘にて名譽の戦死

遺族は神戸市兵庫區大開通九丁目六、嚴父隆繁氏

教職員

吉田 健六氏(専門部學生課)

卒業生

長谷川 隆君(昭六 專經) (舊姓鈴木) 必君(昭六 專經)

高岡 末彦君(昭六 專經) 森田 三三君(昭八 專二商)

木下 清君(昭八 專二商) 橘 正雄君(昭九 大法)

黒川 義美君(昭一〇 專一商) 大上 司君(昭一〇 專一商)

曾我部喬文君(昭一〇 專一商) 近藤 學君(昭一〇 專二法)

校

友

大阪支部秋季懇親會

本年秋季總會は十一月六日(日)舉行、午前九時會員九十七名京阪天満橋驛貸切電車にて發、伏見稻荷驛下車、一同打揃つて稻荷神社の神前に額を祝詞奏上、玉串奉獻、國威宣揚、皇軍將士の武運長久の祈願をなし神樂を奏上して神慮を慰め奉つた。それより

東福寺に參詣し寶物參觀、御堂前にて記念寫眞撮影、後境内通天滿掛茶屋にて餐食、この日天氣清朗三々五々打連れて京の秋色を賞でつゝ泉涌寺に詣で、それより七、八町清掃の坂道を登り泉山御陵に至り襟を正して參拜、次いで西國十五番の札所今熊野觀音に詣で、これより約十町新日吉神社に參拜遙に豐公廟を拜し、清閑寺清水寺等を詣でつゝ京津線にて四時前後新裝なれる總會場『八新』に參集、木の香高き同會場の各所に配する堂本印象畫伯の繪を賞覽しつゝ五時開會、喜多村支部長より挨拶並に武漢三鎮攻略の祝意を述べ非常時認識の内に宴に入る。佳境愈々昂り盛會裡に解散したのは八時であつた。

今田 光匡 飯田 清藏 飯田 正一 一海 景荷
生島 盛藏 島田 繁太郎 馬場 弘道 橋本 鹿藏
八島 治一 林 實 西山 儀助 丹羽 宇三郎
西本 寛一 本 武藏 富田 金三郎 榎本 浩藏
富田 伸次郎 富田 貞男 大崎 萬太郎 岡本 義男
大月 伸 大山 彦一 神戸 正雄 海北 和村

校友總會御案内

拜啓初冬の御愈々御健勝の段奉慶賀候
陳者昭和十三年二月十四日改正の新會則に基
き茲に本年度校友總會を左記次第により開催
可仕候間御出席被成下度此段御案内申上候
敬具
昭和十三年十一月

關西大學校友會長 神戸 正雄

記

日時 十一月二十日(日) 自午後五時
場所 大阪中之島 中央公會堂
會費 金壹圓(當日御持參)

一、總會
一、晚餐
一、講演

現代と皇道

滿洲國建國大學副總理
京大教授・經濟學博士

作田莊一氏

一、映畫

東寶特作

綴方教室(十卷) 天才少女豐田正子の原作を映畫化
したもので我國映畫界近來の名作

最新版戦況 ニュース映畫

森 福太郎君(昭一一大法) 森本 隆男君(昭一一大經)
正木 芳賀君(昭二專二法) 鶴 光男君(昭二專二商)
藤井 隆司君(昭二專二商) 上西 茂夫君(昭二專四)
柴田 士君(昭一三專英)
在學 生
藤原 一馬(學部 法一)

昭和十三年度高文司法科試驗合格者

昭和十三年度高等文官司法科筆記並に口述試驗本學
關係合格者數は左記九名であつた。

(昭八 大法) 藥師寺公臣 (昭八專二法) 岩本 信正
(昭一〇專二法) 小川 泰 (昭一〇專二法) 山口 周吉
(昭一二專二法) 藤川 鶴藏 (昭一二專二法) 梶谷 竹藏
(昭一二專二法) 山本寅之助 (昭一二專二法) 野下 吉秋
昭和十三年度高文行政科試驗合格者
(昭八專二法) 鎌田 徳夫

曩に施行された滿洲國高等文官行政司法官試驗は口
述及び體格検査の結果左記二名が合格した。
(學部 法三) 中村光三郎 (專一法三) 孫 宗 鉉

・門專書國級高・



二十段家書房

入東筋堂御前驛波難市阪大
三七四四話電

福岡支部

大連支部

岸和田在住校友會

法會

—【 10 】—

井上豊、梅谷芳起、大上岩治、奥野弘之、奥間錫彥、後藤徹彌、辻敏夫、坊博之、堀詰文夫、島田晃、(大上記)

會員消息

志野覺治郎君(明治四二專進) 太平洋海上火災保險會社
(北區堂島濱通三丁目三、電福島二三五五)取締役
支配人、住所は從來の町名番地改變せられ、西宮市松下町三〇となる

穂積 修君(大六 專進) 仙臺貯金支局より鹿兒島貯

金支局に轉勤、住所は鹿兒島市池之上町一五九

沖 鶴忠君(大九 專進) 姫路郵便局長より大阪逓信

局監督課現業調査係長(逓信局事務官)に轉任せ

らる

加藤 福雄君(大九 專進) 神戸製鋼所本社より同社東

京事務所(丸ノ内一ノ二、豪銀ビル内)庶務係主

任に就任、住所は本郷區駒込西片町一〇

三宅 通夫君(大一二專進) 株式會社萬年社取締役、住

所は布施市永和三丁目七六ノ六に移轉。

井内源次郎君(大一二專進) 朝鮮總督府農林局農務課よ

り同著産課に轉勤、住所は京城府和泉町二十四號

官舎に移轉

梅田 茂君(大一二專進) 大西土地殖産會社常務取締

役、同社廣島營業所長(廣島市山口町一〇)住所

は廣島市翠町一五四九ノ二(電話八七五三)

川島 政雄君(大一二專進) 鐵道局副參事、廣島鐵道局

岡山運輸事務所(岡山市上石井)庶務係長に轉任

納所 孝君(大一二專進) 大阪朝日新聞社九州支社編

輯局(小倉市砂津)住所は小倉市紺屋町七丁目一
九六

笠島 由孝君(大一二專進) 住所は豐中市新免一〇二

一四

藤井 鼎藏君(昭二 大經) 住所は北區郡島本通七ノ九

光石 正次君(昭二 專進) 警部、大阪府警察部工場課

より築港署へ轉勤

今園 良藏君(昭二 專進) 野村銀行北濱支店より千代

崎橋支店に轉勤

花島 善吾君(昭二 專進) 大阪府總務部議事課より地

方課に轉勤、住所は西區旭北通一丁目二

伊藤 新治君(昭三 大進) 大阪府警部、住所は南河内

郡喜志村櫻井

小寺 寛君(昭三 專進) 野村銀行名古屋支店より大

阪安治川支店に轉勤、住所は豐中市新免一〇七七

廣瀬 義雄君(昭五 大進) 滿洲國軍需上尉、被服廠勤

務より陸軍軍需學校教官に轉任

中田 喜一君(昭六 專進) 大毎津支局より本社内國通

信部に轉勤、住所は東區片江町六六

辰田 巖君(昭六 專進) 株式會社住友本社吳販賣店

住所は吳市東片山町六四

大西常治郎君(昭六 專進) 田嶋洋行(上海博物院路一

二八號四二七號房間)住所は明路八二新上海公衆

寓五七九號

加來 茂彦君(昭六 專進) 滿鐵社員消費組合本部(大

連市若葉町三六)に轉勤

喜多 好平君(昭七 大進) 中河内郡久寶寺村三津九八

ノ四

澁田 昇一君(昭七 專進) 川原商店本店より東京支店

に轉勤、住所は東京市杉並區井荻三丁目二

笹原 圭三君(昭七 專進) 廣島縣豐田郡中野村に移轉

池原 正己君(昭七 專進) 巡查部長、中津署より大阪

府特別高等警察課檢閱係に轉勤

保田素一郎君(昭七 專進) 本學專門部卒業後東京文化

學院文學部を卒へ京城中央放送局放送部第一放送

課アナウンサーとして勤務、住所は京城漢江通三

ノ四一、池永方

村岡 俊三君(昭八 大進) 住所は錦州市錦華區三笠街

辻 玄光君(昭八 大進) 神戸市灘區上野通六丁目五

ノ二八に移轉

池田 政一君(昭八 大進) 大阪稅關に勤務、住所は兵

庫縣精道村打出内濱四五

寒川 喜一君(昭八 專一進) 職業主事補、厚生省大阪勞

働紹介所業務係長

辻本 修君(昭八 專二進) 辯護士を廢め九月大阪地方

裁判所豫審檢事を被命

喜田 政雄君(昭八 專二進) 奈良縣北葛城郡王寺町驛前

上田政治郎方

赤尾 道信君(昭八 專二進) 住所は西淀川區野里町七八

九に移轉

顯谷 泰三君(昭八 專二進) 住吉區住吉町一二八

田邊 榮二君(昭八 專英) 港區八幡屋入船町四ノ二〇
古賀 秀吉君(昭八 專二商) 兵庫縣川邊郡小濱村下川面

三に移轉

足立 進君(昭八 專二商) 住所は旭區今市町九四八
村田 英一君(昭八 專二商) 鹽野義商店本社より上海支
店(上海文路四四一號新泉寮内)に轉勤

中前 修吉君(昭八 專二商) 東西電球會社大阪配給所(電話南一七二二)に勤務、住所旭區生江町五〇二
西垣 友夫君(昭八 專二商) 日本晝夜銀行京都西支店勤務、住所は京都市左京區下鴨半木町七七、奥井巖方に移轉

池尻 忠夫君(昭九 專一法) 厚生省失業對策部事業課
大迫富士彦君(昭九 專一商) 北支派遣軍彰德特務機關
陽縣顧問

◆

佐藤 良平君(昭一〇 專一商) 朝鮮大邱商工銀行本店を
辭し上海銀行(上海海寧路一九〇號)に勤務、住所は狹思威路四四三號中日舊アパート五號

川島 楠治君(昭一〇 專二商) 株式會社大阪アルミニウム製作所(浪速區櫻川三丁目)に勤務、住所は北區眞砂町三、竹西方

小笠原 衛君(昭一〇 專二商) 熊本縣陸軍教導學校步兵
砲隊第一區隊第二班に入校

◆

司馬 正己君(昭一二 大法) 花木本家商店醸造部に勤務
松野清太郎君(昭一二 大法) 關西商工無盡會社に勤務
田村 邦昭君(昭一二 專一經) 高知縣土木課より經濟課
に勤務、住所は高知縣長岡郡久禮田村久禮田八二

岸本 毅君(昭一一 專二經) 日滿倉庫會社大阪埠頭事務所(此花區梅町三丁目一)に勤務

◆

川島 通利君(昭一二 大法) 廣島市南竹屋町二三ノ九、
谷口シヅ子

◆

伊藤 善一君(昭一三 專一商) 北京崇文門大街三九號ジ
ヤパンツトリストビュロー

藥師寺富美雄君(昭一三 專一商) 十八銀行本店に勤務
山田 通君(昭一三 專二法) 滿洲國司法部人事科に勤務、住所は新京市安達街一二五、金島丈夫方

栗田 義典君(昭一三 專二法) 立命館大學法經學部甲班
政治學科在學、住所は京都市左京區下鴨宮崎町一
二四、佐々木方

李 鴻年君(昭一三 專二經) 駐日滿洲帝國大使館商務
官大阪辦公處稅關屬官兼外務局屬官より大連稅關
稅務科稅關事務官に轉任

鶴飼 正之君(昭一三 專二商) 神戸市湊東區桶町二丁目
二九四ノ二

◆

渡邊良三郎君(推 薦) 旭區今市町一〇六三に移轉

改 姓 名

(舊)

(新)

(昭三 專經)	山部 寬
(昭八 大法)	山上 政一
(昭一二 專一經)	大川 邦明
(昭一二 專二法)	三杉 泰三
(昭一二 專二法)	三橋 本泰
(昭一二 專二法)	三

校友會會費拂込者氏名 (其ノ三)

一時拂 (五拾圓)

大月 伸	植田 完治	谷岡 登	三好 萬次
三島 律夫			

昭和十四年度會費

中村 忠夫	昭和三十三年度會費	村本 福松	瀧川 規一	新町 德之	横田伊三雄
		川口 正夫	橋本 喜作	橋本 義雄	須藤 榮一
		内田 武巳	中村 俊滋	森田 鶴三郎	戸根 泰雄
		三宅信太郎	中村 靜麿	木村 禎橋	木村 忠篤
		三輪與四郎	佐脇 利吉	田那 政高	鈴木 貞之
		山本 三郎	大野 敬一	白井 裕治	佐藤 貫治
		田中 英一	片山 義忠	西村嘉三郎	西田 禎文
		本庄 實	茶谷 忠治	小川 忠藏	小川 裕人
		大坪 一	澤瀉 久敬	神戶 三郎	中西 章
		國藏 胤臣	黒田 正利	安田 恭平	安井 源雄
		山田卯三郎	江馬 務	有馬健之助	三谷 道麿
		平林 治德	廣瀬 拾三	向井 勇	末吉 忠彦
		福田 次彦	福島 正二	中野 聖	坂倉 廣顯
		四辻 詮	永野 吾一	笠島 由孝	藤本 保
		松井善太郎	辛環 奎	岸本 芳夫	石橋 輝雄
		古川 武	井上 文夫	伊東 眞造	古屋 美貞
		吉田 毅	松本 重雄	村岡 俊三	池之内三郎
		山下 正夫	松浦 威夫	番田 聞輔	中村 忠夫
		窪田 義德	寺澤 眞喜	今關 眞藏	波多野隆助
		築山 藤一	田原 孝	野中 轍	湊田 昇一
		上田 治雄	萬田 博史	川島 正也	飯田 清藏
		藤井 武雄	古市賢太郎	今岡 琢磨	佐藤 良平
		山内 義治	川島 通利	菊池 勳	



政治學會

名目よりも内容に、形式よりも實質を、と云ふスロガンの下に全會員の献身的な努力は遂に在學生を中心とした大政治學會建設の礎地を作り上げた。今や帝國の大總統は日を追つて完成の域に迫つてゐる。漢口も陥落した、廣東も我が手に歸した、此の國民的興奮の中に生きている我々は偉大なる日本の次の時代の相續者として將亦自らの使命遂行の爲めに建設第二期の形式的完成に向つて一層の努力を拂はねばならぬと信じてゐる。

此れが現在政治科學を學ぶ者の大目標であり、此の學會をして今日あらしめた諸先生先輩に對する感謝の表現であると思ふ。

我政治學會は此れを機會に形式的充實目指して第一歩を踏み出さねばならぬ。

此の前提に於て、我々は十一月中に左記の會を催す豫定である。(永井暉)記

- 一、各學年クラス會
- 一、學生懇談會
- 一、名士内藤正剛氏に御話を聞く會

——岩崎先生の御盡力に依る——
當日を政治學會秋季總會として、教授、先輩、諸氏の御出席を求め先輩の聲を聞く。

商學會

武漢我手に歸してより長期建設へ、統制強化へと時局は愈々革新の軌道を驕進しつつあり。

我が商學會も亦此の時局を良く認識し、これに遅れじと有意義な事業の計畫と實行に努力しつつあり。

一、經營學研究部

尼崎市商店街調査(第一次構成調査)を學内外各方面の期待と注視の裡に十月十六日午前九時より會員中より編成せる調査隊員二十七名を東、西本町杭瀬の三班に分れて各商店を戸毎に調査して、午後六時豫定通り完了す、その後引續き數日間研究室に於てその調査票に就て研究整理の結果次の如き項目の統計表を成し得た。

業者の分類、開業年月、賣場面積、販賣地域及範圍並に販賣方法、顧客の階級或は取引方法從業員數並に其種別、營業時間、店舗の家賃其他商店街の構成に關する各種項目、

尙此の内容の詳細並に批判に就ては加藤教授より近く大新聞其他印刷物等を通じ或は又研究報告會に於て發表される。

更に又第二回調査は經營金融等の個別的調査を十一月下旬に行ひ引續き消費調査に及んで完了するものにして次年度に行ふ、大阪市内周邊商店街の調査を併せて本調査の目的である周邊

商店街と衛生都市商店街との比較研究に向ふものである。

一、時局經濟研究部

十月十四日午後一時より研究報告並に討論會を學友會館集會室に於て次の如く開催し、異常なる熱會裡に午後六時閉會す。

「商店法の經營經濟的考察」商三 甲斐龜夫

「新滿獨通商協定に就て」商三 内村徳藏

加藤金次郎教授の出席御指導を受く。

一、商工實務研究部

簿記の實踐的研究を加藤教授指導の下に毎週火曜日第九教室に於て續行しつつあり。

一、見學舉行 十一月四日

王寺製紙神崎工場及びキリンビール工場を會長並に顧問諸先生の引率にて會員四十名参加見學す。

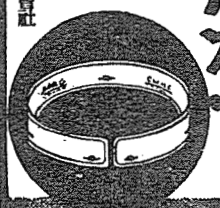
十一月一日報

以上

“Ideal”
最高級詰襟カラー
アイゼンアルカラー

經濟
優美
堅牢

三國セルロイド株式会社



第十三回 大學祭

學園全學徒待望の大學祭は、昭和十三年十月二十三日に舉行、この日寒からず暑からずの絶好の運動日和支那事變後の守りとして、最も緊要事なる體育厚生を茲に其意を服膺して、眞摯なる體育大會即ち第十三回大學祭の出現となつた。

本年は時局から出征將士の勞苦に對しても從來の興味本位の催物等は遠慮する事となり、競技中には特に質實剛健そのものゝ武裝競争、俵運び競争、野試合、三勇士競争など振武的な種目を選び、プログラムに織り込んで夫れゝスタンドを埋め盡した大觀衆の絶讃を博した。

又その他、豫科運動場には學内相撲大會を、本學庭球コートに學内庭球大會を、恩賜威德館に於ては近畿中等學校柔道優勝大會を舉行して大盛會裡に終了した

式典

午前九時、千里山大運動場に學長以下教職員並に學園全學徒集合、各部整列の上、聖戰時局の秋たるを深く認識し、嚴肅裡に國歌合唱、皇居遙拜、國旗掲揚をなす、學長の訓辭終りて校旗を先頭に全學園合併部隊の行進分列式を行ふ。清らかな秋氣を震はして號令の懸聲、續いて一つのリズムに乗つて輕快な靴音・統整された日頃の教練振りを充分に發揮して復び整列、學歌第一節を齊唱して、愈々元氣に明朗に健康體育大會の幕を左記プログラム通り切つて落す事となつた。

體育大會

トラック

- 一、百米豫選
- 二、武裝競走
- 三、四百米豫選
- 四、借物競走
- 五、二百米豫選

畫

合同體操

午後〇時十分

食

フィールド

- 一、走高跳
- 二、圓盤投
- 三、俵運競走
- 四、アメリカンフットボール

- 六、三學友會對抗リレー
- 七、四百米決勝
- 八、障害物競走
- 九、二人三脚
- 十、百米準決勝
- 十一、東海道五十三次競走
- 十二、千五百米
- 十三、關甲二商對抗リレー
- 十四、百米決勝
- 十五、職員提灯競走
- 十六、二百米決勝
- 十七、學部専門部豫科教授對抗リレー
- 十八、各課對抗リレー
- 十九、學友會各部對抗リレー

近畿中等學校柔道大會

(於千里山道場)

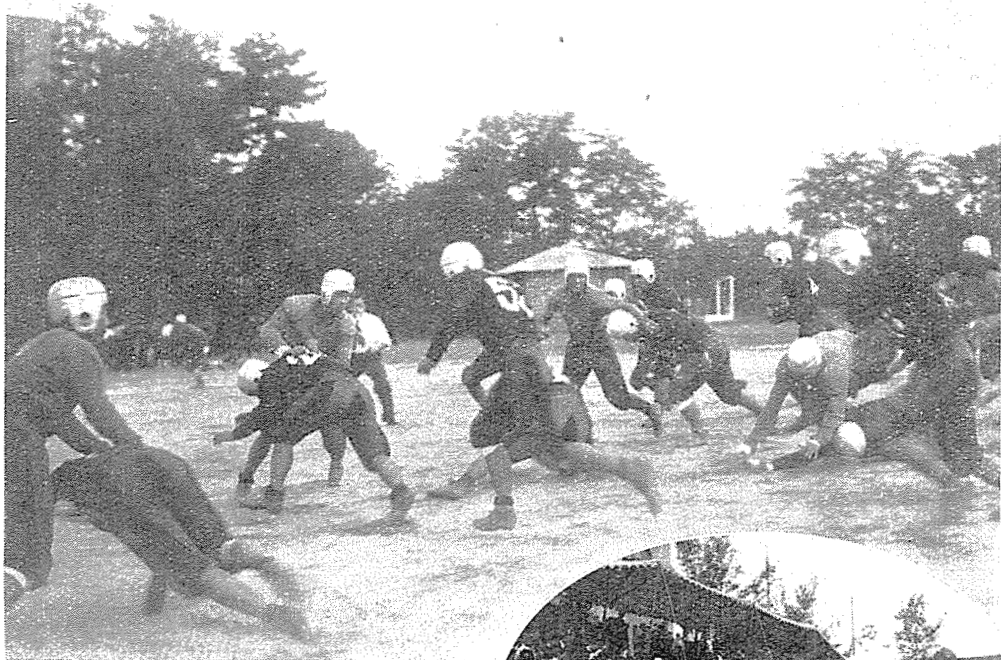
體育大會係

主任 野村 次夫

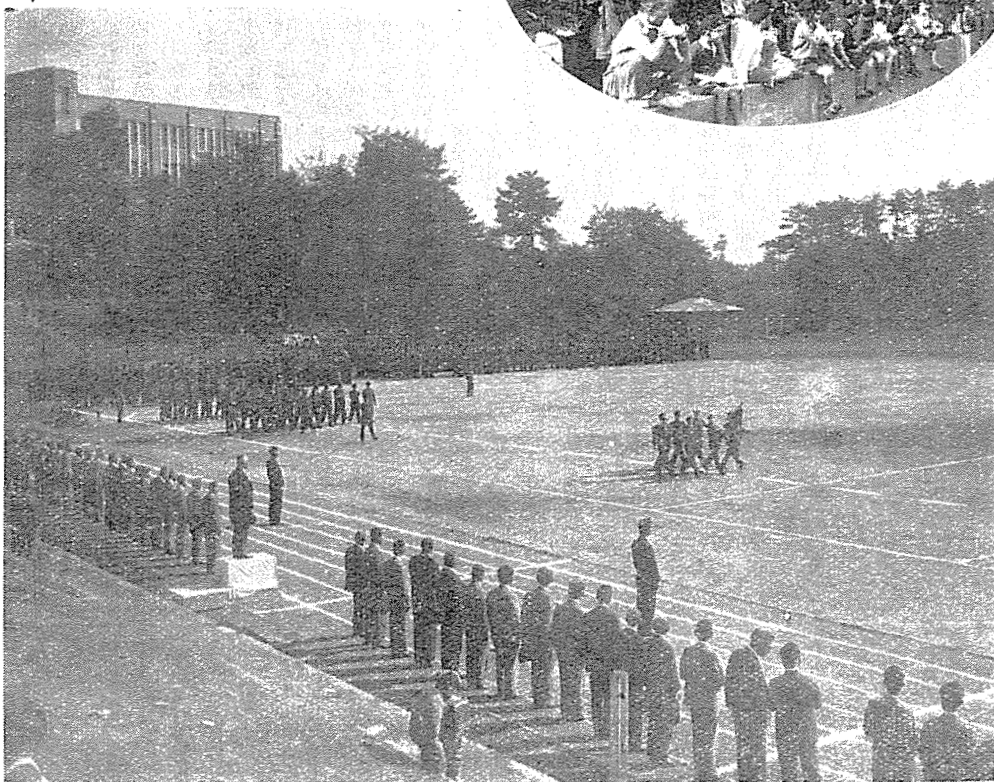
學生側

主任 安達 竹七(學部)
溝上 明(專二)

陸上競技係	西村 公利(學部)	川田 喜代治(學部)	角力係	村上 榮男(專二)	山本 正己(專二)	庭球係	清水 清行(專二)	古賀 猛夫(專一)	原 耕起(學部)	川田 喜代治(學部)	進行係	堀川 義臣(學部)	足立 喜夫(學部)	松田 七郎(專一)	模範競技係	澤田 利三郎(學部)	高洲 輝明(學部)	松井 正雄(專二)	岸源 左衛門	一部	法璋	稻垣 彌三郎	顧問	青山 金雄	北田 法璋	白井 要三	總務	川田 喜代治	竹內 廉三	審判	瀬田 旭	北田 法璋	監察	白井 要三	召集員	青山 金雄	北田 法璋	通合員	川田 喜代治	竹內 廉三	決勝審判員	古川 元治	中川 英一	青木 正二郎	計時員	小池 九一	直原 時雄	有賀 次郎	跳躍審判員	小倉 克一	福原 重信	前田 四郎	投擲審判員	權代 文吾	堀田 政夫	豐田 謹造	記録係	川崎 道夫	堀田 政夫	豐田 謹造	競技進行係	荒川 一郎	堀田 政夫	豐田 謹造	他校選手係	鈴木 正夫	高原 滿隆	山手 寛二	賞品係	鈴木 正夫	高原 滿隆	山手 寛二
-------	-----------	------------	-----	-----------	-----------	-----	-----------	-----------	----------	------------	-----	-----------	-----------	-----------	-------	------------	-----------	-----------	--------	----	----	--------	----	-------	-------	-------	----	--------	-------	----	------	-------	----	-------	-----	-------	-------	-----	--------	-------	-------	-------	-------	--------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------



第三十回大學祭典
米式蹴球・觀衆・式典



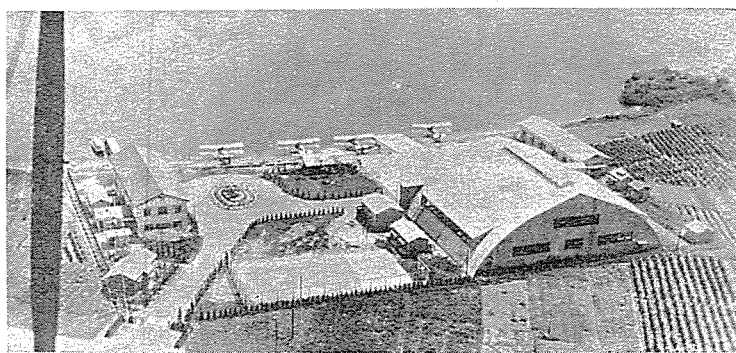
學生パイロット

海軍豫備航空團に就て

支那事變勃發以來一年有餘、擊墜一千餘機の驚異的戰果を収めた我航空部隊の縱橫無盡の大活躍こそ、正に世界驚異の無敵帝國海軍航空隊の勇名を轟かせたのである。々翼強ければ國強しくかくして今や荒鷲群の羽搏く處、敵空軍の姿すら見え、全支配空權は完全に我空軍の手に握られた有様にて近代戰の勝敗には制空權獲得の如何は重大なる役割を果すことを今更の如く痛感するのである。空に關心を有し、更に光輝あるわが海軍航空隊の一員ともなり國防一線に立ち又偉勳輝かしき、諸先輩將士の偉業後繼の一端をも果すべく、華々しく空に雄飛せんと志す諸兄に、海軍豫備航空團の内容の梗概を記して參考に供したいと思ふ。

吾人は今學窓にありて戰火の勞苦も味ふ事無く學業に専念し得るが、一旦學窓を出ずれば兵役に就くのであるが、陸軍に幹部候補生制度あることは既に周知の事であるが、海軍にも之によく似た制度がある航空關係の豫備武官を志す者のために航空豫備學生の制度がある。この航空豫備學生は、約一ヶ年、海軍練習航空隊に於て軍事教育を受け、これを卒業す

ると海軍豫備武官、即豫備將校に任ぜられ、豫備役に編入せられ、各自所期の生業に就くのである。勿論一朝有事の際は召集せられ、護國の任務に服するは一般



海軍豫備航空團大津支部

豫備役軍人と同様であるが、豫備役中に於て若し航空機の運航又は運航の教授に従事してゐるならば、その勤務年數及飛行時間等の經歷に依り順次海軍豫備大佐

迄進級し得るの道が開けてゐる。之全く海軍豫備員の特色である。而してこれを志願し得るのは専門學校以上の卒業者に於て所屬學校在學中、海軍豫備航空團に於て準備教育を受けて置かねばならないのである。

海軍豫備航空團はかゝる準備教育を爲すこと並に豫備武官の航空術に對する技術の維持向上を計ること等のために海軍の提唱に依り創設せられ航空團の事業に要する經常費及び飛行機は全く海軍より下附せられ團員は一切費用無用にして、交通費迄補助され、所屬學校に於ける授業の餘暇を利用して團へ來り、航空術の訓練を受けるのである。

大津市外唐崎の松近く比叡の翠巒を背景に琵琶の碧湖に臨んで、ダイヤモンドトラスの近代式格納庫が巍然として聳ゆるのが見える。即ち我が海軍豫備航空團大津支部である、當支部は京阪神地方の學生にして航空關係海軍豫備武官を志す者のために、昭和十二年四月設立され、今現に我等元氣潑潑たる青年學徒は夙に團員となり學業の餘暇、都塵を離れて飛行服に身を固め、山紫水明の琵琶湖上空高く日の丸輝く銀翼に身を任せ、果しなき大空を快翔し、光輝ある我海軍鳥人を目指しつゝ無限の空に無限の飛躍を試みんと、ひたすら航空の技にいそし

んでゐる。

飛行機操縦は單なる手足の運動ではない、人間の人格、精神力、體力、等全ての感覺器官が瞬時に動員されて、始めて飛行機は空を飛び得るのである。操縦は人格である。かくて空中戰にも優秀なる効果を得る全く操縦は科學と全人格との融合である。

空に關心を有する若人よ!! 一度日曜の半日を當滋賀飛行場に費して、銀翼の羽搏き練習に餘念無き若人の勇姿を見よ。銀翼に身を托し、爆音を友とし碧空を駆けめぐる緊張の一時時、誠に男子の本懐これに勝るものはない。

吾、關西大學からも専門部一部商科參年、高畑君の二名、又今般の團員募集には、團員候補者とし學部一年梅田君、專一、商二、尾崎君、同じく經二、山根君の三名加へられ、提部長初め教職員の方々の熱心なる御教導のもとに、我々は學業の餘暇、餘念無く操縦に精進努力してゐる。

こゝに海軍豫備航空團の簡略な梗概を記し、空に雄飛せんとする若人諸君へ參考の一助とする次第である。

來るべき團員募集には我關西大學からも奮つて多數應募せんことを祈る。

(續 正明記)

關大スポーツ...

陸上競技部

全日本東西對抗大會は十月八日及び九日の兩日明治神宮競技場にて舉行、西軍に本學選手参加の上戦つたが二三五點對一八五點にて敗る。

百 米 ②谷口 ⑤川手
四百米續走 ②西軍チーム

(川手、岡田、張、谷口)

二百米 ①谷口

日本學生對抗陸上大會第一日は二十二日より、東京日吉蠶慶應競技場にて舉行、本學至寶戸上研之主將の参加なく大量得點を阻まれた事は寂しかった。

二百米決勝 ①谷口睦生 23秒3

⑥川手輝典

走幅跳決勝 ⑥谷口睦生 6米57

四百米續走 ③關大チーム 44秒8

(川手、岩尾、鈴木、谷口)

棒高跳決勝 ⑥安井昌一

百米決勝 ①谷口睦生 10秒6

③川手輝典 11秒2

千六百米續走 ⑥關大チーム

得點順位 23點¼ 第六位

野 球 部

秋季リーグの終幕覇權を逸す

對同志社大學戦

十月九日 一回戦 於京都西京極

關西大學 6-1 同志社大學

關大 (000002020206)

同大 (000010000001)

關大 (岡本、宮川)

同大 (榎原、間)

十月十日 二回戦 同志社大學

關西大學 7-0 同志社大學

關大 (111000020027)

同大 (000000000000)

關大 (榎下、岡本、宮川)

同大 (榎原、間)

對京都帝國大學戦

十月十七日 一回戦 於寝屋川

關西大學 4-2 京都帝國大

關大 (20001000100024)

京大 (0000200000002)

關大 (岡本、宮川)

京大 (福村、豐川)

十月二十日 二回戦

關西大學 6A-5 京都帝國大

關大 (3001000100005)

京大 (0005000000016)

關大 (福村、豐川)

京大 (肥下、宗内、宮川)

對立命館大學戦

十月二十二日 於寝屋川

立命館大學 2-0 關西大學

立命 (000020000002)

關大 (000000000000)

立命 (岡山、安岡)

關大 (岡本、宮川)

關大、立命共に七勝の同率となり二回戦の勝敗を以て最後の爭覇戦となる

十月二十三日 二回戦

立命館大學 4A-1 關西大學

關大 (100000000001)

立命 (0300010000A4)

關大 (岡本、宮川)

立命 (岡山、安岡)

弓 道 部

安打三振四死 失策

優長十六校に入選

全日本學生弓道大會 第一日

十月二十九日 於京都帝大弓場

第四位 關西大學 14中

射 撃 部

全日本射撃聯盟三市部對抗關西選手權大會は深草射場にて舉行、代表選手として石黒(關大専門部)入選

十月二十二日 於京都大谷射場

關西大學 257-260 京都帝國大

關西三大學對抗競技會

十月二十四日 於京都射場

團體

①立命大 ②關大 ③同志社大

個 人

③津村(關大) ③寺内(關大)

十月二十九日 於京都射場

關西大學 257-261 明治大學

早大専門部 275-281 關大専門部

十月三十一日 於京都射場

明大専門部 257-267 關大専門部

東西聯合對抗戦

早慶聯合軍對關大同志社立命聯合軍試合は十一月一日京都大谷射場にて舉行次の成績にて大勝す

關西聯合軍 260-251 關東聯合軍

蹴 球 部

十月九日 於神戸東遊園地

神戸クラブ 5-1 關西大學

十月三十日 於奈良

關西大學 5-2 大阪クラブ

關西學生秋季リーグ戦

十一月三日 於南甲子園

關西學院大學 6(310)1 關西大學

庭 球 部

デ杯選手倉光君還る

我がデ杯選手として派遣せられし本學

倉光安峯君は十月六日サンフランシスコ

出帆の淺間丸にて歸朝す

對法政大學定期戦 第十四回

十月八日・九日

本學千里山コートに於て舉行

法政大學 5-4 關西大學

菅野(法政) 6-1 4 2-6 堀内(關大)

池田(法政) 9-1 7 6-3 福田(關大)

今井(關大) 10-7 5 8-6 谷口(法政)

中村(關大) 6-1 4 6-1 廣瀬(關大)

松本(法政) 6-2 4 6-1 奥村(關大)

橋本(法政) 4-1 6 9-7 堀内(關大)

池田(法政) 6-1 1 6-4 福田(關大)

今井(關大) 7-5 4 6-3 小谷(法政)

中村(關大) 6-1 4 7-5 谷口(法政)

奥村(關大) 6-1 4 9-7 廣部(法政)

松本(法政) 4-1 6 6-3 廣瀬(關大)

東西學生對抗庭球

十月二十三日 於東京田園コート

山岸(慶大) 6-1 1 6-3 倉光(關大)

種田(早大) 6-1 4 6-2 奥村(關大)

松本(法政) 6-1 4 8-10 廣瀬(關大)

山岸(慶大) 6-1 2 6-2 倉光(關大)

全日本庭球選手権大會 第三日

十月二十八日 於東京田園コート

安川(東大) 6-1 2 4-6 廣瀬(關大)

藤倉(慶大) 6-1 2 7-5 倉光(關大)

倉光(關大) 6-1 4 6-7 5 松山(京大)

奥村(關大) 4-1 6 7-5 不破(京大)

田中(早大) 6-1 0 6-4 倉光(關大)

高尾(早大) 3-1 2 6-4 奥村(關大)

ラグビー部

十月九日 於花園競技場

京都帝大 55-29 26 3 關西大學

對法政大學定期戰 第十四回

關西大學 18-15 3 11 法政大學

これにて勝關大一勝一引分十二敗となり
最初の凱歌を挙げた

十月三十日 於花園競技場

大阪商大 25-6 關西大學

卓球部

學生優勝大會 第七回

十月二十三日 於大阪商大

關西大學 3-2 神戸商大
關西大學 3-2 關學大

籠球部

關西學生秋季リーグ戰

第一部

十月十五日 於甲子園

關西大學 39-21 18 20 17 37 大阪商大

十月十六日 於甲子園

大阪商大 38-19 11 20 13 33 關西大學

ホッケー部

十月十六日 於千里山

關大 7-4 3 1 1 一ツ橋O・B

十月廿三日 於千里山

關大 5-3 2 2 4 全關西

十月廿日 於千里山

關西リーグ戰

關大 13-7 6 0 0 0 神商大

國民體育關東大會に於ける東西對抗に
は西軍に本學よりF W 大谷 F B 宇敷 G K
高洲参加の上力戦す

關西軍 3-0 3 1 2 3 關東軍

千里山馬術部

專屬馬征途に上る

十月十二日堺金岡練兵場にて第九回三
部對抗學生馬術大會が舉行され、本學よ
り關西側代表選手として關大のトリオ、
廣谷安藤中里の三君出場力戦せしも關西
軍惜敗す

九月十二日これ迄幾多の名騎士を生み
出せし、本學馬術部優秀馬、孫駿號、玲
雁號、此の度び軍用適格馬として聖戰遂
行の皇軍の一員として榮ある征途に上り
し事は、馬事報告に精進する馬術部とし

て最も光榮と致す所である、この上から
は他馬に劣らざる功を建て、くれる様切
に祈る次第である左に馬籍を略記致しま
す。

○孫駿號 年六歳、毛色鹿毛、血統ア
ンダロノルマン種、産地岩手
縣、入隊後部隊長用馬

○玲雁號 年十歳、毛色鹿毛、血統ア
ンダロアラブ種、産地福島縣

拳闘部

明治神宮體育大會出場並びに比島遠征
日本代表決定を兼ねた、全日本アマチュ
ア拳闘選手権大會關西豫選は十月九日午
後一時より甲子園リングで開催成績左の
通り

フライ級

○森川(關大) 判定 龜山(中外拳)

○和田(關大) 判定 横川(亞細亞)

○フエザー級

○山田(關大) 不戦勝

○ライト級

○岡部(Y・M・C・A) 判定 高木(關大)

全日本選手権關西準決勝戦は十月十二
日午後七時より朝日會館にて開催

フライ級

○伊澤(廣島) 四回延長判定 森川(關大)

○パンナム級

○和田(關大) 判定 細井(亞細亞)

フエザー級
○山田(關大) 判定 今村(京都拳)

フエンシング部

第一回全日本フエンシング選手権試合は十月十六、七日 大阪Y・M・C・A 體育館に於て行はる。

全日本團體選手権試合は關東代表軍法政チーム對關西代表軍本學チームと確定すれど、本學選手事故の爲棄權す。

個人戦に於て本學より四名出場(内補缺二名)本學より「サーベル」戦に木村第四位獲得、「エッペ」戦に八尾第五位を得る。成績左の通り。

木村(本學)⑤V・S 4 中谷(同大)第五位
 “ ” ④V・S ⑤ 平沼(慶大)第三位
 “ ” ⑤V・S 3 兵頭(〃〃)第二位
 “ ” 〇V・S ⑤ 牧 “ ” 第一位
 八尾(本學)2V・S ③ 尾形(大商)第四位
 “ ” ①V・S ③ 池内(法政)第一位
 “ ” ③V・S 2 酒谷 “ ” 第六位
 “ ” ②V・S ③ 平間 “ ” 第二位
 “ ” ③V・S 2 芳崎(大商)第三位
 来る十一月二十日より開催される、國民精神作興體育大會、關西大會のフエンシング戦に、出場者關西アマ・フエンシング協會より指命さる。

主將 田中龍一郎(サーベル・フルール戦)

八尾壯比古(エッペ・フルール戦)

庭球部 (専門部二部)

府下大學高專大會優勝
十一月三日、於昭和商高コート

一回戦

榎原(關專)	4-2	富井(大高醫)
和田(關專)	4-0	清水(昭和商高)
石岡(關專)	4-0	岡部(昭和商高)
岸本(關專)	4-0	高木(昭和商高)
小島(關專)	4-0	武内(昭和商高)
近藤(關專)	1-4	藤原(大高醫)
三島(關專)	1-4	間島(大高醫)
三回戦		
西本(關專)	4-1	東國(大藥專)
石岡(關專)	4-1	友國(大藥專)
岸本(關專)	4-0	丹下(大高醫)
小島(關專)	4-0	浦野(大高醫)
準優勝戦		
西本(關專)	0-4	仁科(大高醫)
石岡(關專)	0-4	中村(大高醫)
岩本(關專)	4-2	萩原(大高醫)
小島(關專)	4-2	間島(大高醫)
三等決定		
石岡(關專)	6-4	萩原(大高醫)
西岡(關專)	6-4	間島(大高醫)
優勝戦		
岸本(關專)	4-2	仁科(大高醫)
小島(關專)	4-2	中村(大高醫)

學生

參 陵 會

第三次第五次例會

十月廿四日(月)午前八時三十分、大阪驛發、九時過ぎ京都着、市電にて左記各陵に至り參拜、豫定時間より早く終へしを以て、尙、平安神宮に參拜此處にて解散す、時に午前十一時過ぎであつた。

本日の巡拜御陵は次の如し。

第五十七代 陽成天皇 神樂岡東陵
 第六十三代 冷泉天皇 櫻木陵
 第六十八代 後一條天皇 菩提樹院陵
 第九十四代 後二條天皇 北白河陵
 本日の參加者、面地、田坂、澤田、山根、乾、山形、濱崎、熊谷、松井、杉本、大谷、小島、平野、波多野、南部、以上十五名。

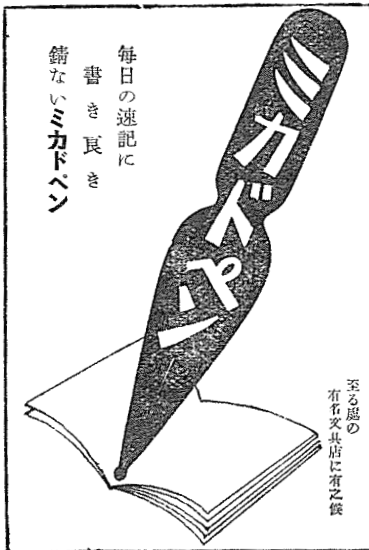
佛教青年會

(千里山)

十月四日午後三時より第一回例會を開く、佛典研究の第一回として三枝樹會長講師となり勝鬘經を講義せられ

る。勝鬘經は委しくは勝鬘獅子吼一乘大方便方廣經といひ、經全體の構想より云へば、その名の示す如く勝鬘といふ一妙

齡の婦人を主人公として、其の所信の大乗佛教の精神を身は阿踰闍國の友稱王の賢婦として、又攝政の位に住し、在家止住の立場に有つて個人的に體得し社會的に實現せんと努力せられ、我國聖德太子が、此の經に共鳴せられて疏を作り、自ら佛子勝鬘と號せられた程、此の經には深意があるのである。勝鬘經を宗教的に觀察するならば在家生活のまゝにして出家生活者より以上の嚴肅さと深さとが溢れてゐるのであつて、やゝもすれば身口



毎日の速記に
書き良き
錆ないミカドペン

の外形的行爲によつて、道德的規準を律せんとする世上一般の傾向に對して此の經が外的行爲の源泉であり、外的行爲の規定者である、心意に着眼して、犯心慢心者と云つて居り、而も一步を進めて現實的に生起する犯心慢心の背面に不斷に流れてゐる根本精神に對して一大革命を加へんとの深遠なる立場に據つてゐるのである。勝鬘經第一回の講義は經の序論及び第一章歡佛眞實功德章、第二章十大受章であつた。序論は勝鬘夫人の人格と經の重大性、第一章に於ては勝鬘夫人が初めて如來の來現に接し、讚歎を奉りその加護を請ふたものであり、第二章に至り夫人が佛を見て歡喜し、希有の心を起して信より戒に順より實行に進まれる爲め十大受といふ三聚淨戒に概括する十個の大願を起された。以上の三節を三枝樹講師は流暢な辯にて内容を平易に解説せられ全くの門外漢の者でも容易に理解せられ第二回の研究會を期待せしめられた

第二回の研究會は十一月十五日に開催せられる豫定である、尙當日は支那佛教の權威者塚本善隆師の北支視察談が有り諸兄の御期待を希ふ。尙十一月十三日觀心寺の寶物拜觀を兼ねてハイキングを行ふ當つて御参加をお願ひ致します。

(専門部)

久しく絶えてゐた専門部佛教青年會は

十三年十月十二日會員は僅と雖も三枝樹教授を指導者として茲に青年の意氣に似て再生することを得た。

決定事項としては、月一回例會を開き通佛教の聖典講座を主眼として、午後九時から十時までとし、本年度は勝鬘經の講義を聴講することとし、次會の講座は十一月九日水曜日と決定、講義は眞摯なる求道者の聴講を自由とせり。

かくして初會は十時の閉門のベルを合圖に和氣調々裡に終了することを得たり。

基督教青年會 (千里山)

武漢三鎮陷落まで聖戰正に一年有半、時局正に新段階に入らんとする時にあたり日本基督教青年會同盟關西地方部會が十月二十九日三十日の兩日に涉り京都帝大青年會に於て開催された。基督教學生は時局への正しき認識、將來への供へを固くせんため眞摯なる態度にて熱心に主にある兄弟のみの味へる歡びの中に會議が進められた。我青年會はこの會にて與へられた聖火を捧げ進まんとして居る。

議題は大陸進出、時局への認識等時代に即したものであつた。

本校参加者安田(商三)本田(法一)小倉

(二豫二)

先聲在學生合同ハイキング

十一月六日一同仁川上流方面へハイキングを行ひ大自然の中に神の御業を思ひ禮拜後すき焼をかこみ歡を盡した。

(H 生)

(専門部二部)

讀むべき哉我等の主イエス・キリストの父なる神、即ち諸々の慈悲の父、一切の慰安の神、われらを凡ての患難のうちに慰め、我等をして神に慰めらるゝ慰安をもて、諸般の患難に居る者を慰むる事を得しめ給ふ。我等は特殊學生團に科學を探究してゐる、月に一度會合する學舍の兄弟の讚美と謙遜な祈は涙ぐむ迄感謝である、十月七日の例會は禮拜後懇談報告通信をした。十一月は本學創立記念日の四日午後六時より大阪西日本基督教會で晚餐を共にし我が主の御前に交誼を一層深めたつもりである。

光、暗より照り出でよと宣ひし神は、イエス・キリストの顔にある。

神の榮光を知る智識を輝かしめんために我等の心を輝し給へるなり。(コリント後書四ノ六) 書記法二 橋詰兼義

東亞研究會

明治節の佳節に今回我が關西大學の蒙疆に於ける唯一の先輩たる中島萬藏氏が蒙疆聯合委員會主席徳王に隨員として歸

戰陣賦

北支にて (專二英三)

藤岡英輔

◎萬難を冒して送る彈と糧

◎一線へ運んで輜重がまれる

第一線で彈藥や糧食の缺乏に際し之を運んだ時、その將兵の喜び方……この時許りは拜れる、

◎遊撃の戦法とやらで輜重を狙ひ彼等の一着得意とする遊撃戦法で輜重を常に狙ひつゝあり、

◎名月を酒に浮べて今宵かな

幾百年、又幾千年、古の榮華を偲ぶ樓門に名月を眺め慰問袋の酒肴で御國自慢に花が咲き、今日の戦争も明日の行動も忘れれる一刻が極樂の世界であります

◎かめ風呂も名温泉の肌ざはり

幾日ぶりの戦塵を流すかめ風呂も今の吾々には天下の名温泉に浸る心地です

◎姑娘も日本兵が好きとなり

我兵を見れば、家屋内深く逃げ込んだ支那の婦女子達でもすつかり安心信頼し笑顔で迎へる様になり殊に面子を重んずる彼等は日本人の朋友のある事を大なる誇りとし其家の婦女子が争つて訪問して来る様になりました

朝し大阪に立寄りたるを多忙中の中島先
輩の快諾を得、氏の同窓たる小林、吉田
先輩の御斡旋に依り中島先輩の歓迎會を
開催す。學生側には六名の代表者が
參加、主として我が東亞研究會員にして
此の日、中島先輩の蒙古に於ける貴重な
體驗談を聞き生きた資料として吾人の
今後の大體認識に大いに資する所があつ
た。斯くて恩師本莊鐵次郎先生の愛に満
ちた挨拶並びに先生の發聲にて學歌を合
唱、萬歳を三唱して散會す。

東亞研究會(專門部一)

十月十六日 例年の通り、秋季ハイキ
ング會を催す。千里山——箕面コースに
して好天に恵まれ、吾東亞研究健兒の意

氣は彌が上にもあがつた。參加人員九名
(I) 十一月五日午後七時より天五「光」
にて本年度第二回討論會を開催す

一、滿洲農業政策の現段階

商一 河本繁一

一、北支に於ける工業的立地に就て

經二 松島 央

一、成吉思汗について

商三 石田俊夫

今や皇軍は廣東漢口を攻略し破竹の勢
を以て進撃する一方、愈々長期建設に
邁進せんとする、此の重大時局に際し
我々會員が東亞諸問題を討論する事は
眞に時局に適つたものと信ずる。論者
中でも石田君の強き研究心に對しては
唯々感激。

(II) 十一月十日、我

等が待望の機關誌
「東光」第二號が遂
に發行せられた、創
刊號出版以來、日進
月歩茲に又第二號を
得た事は會員として
眞に喜びに堪へない
更に本年度を期し諸
會員の盡力を切に要
望する。

(專門部 岸田生)

(千里山吟詩部)

先學期吹田町第二小學校講堂に於て第
三回學生吟詩會組舞大會を開催し、大好
評をばくしたる千里山吟詩部では、今回
更に淡路浪華商業學校に於て、第四回大
會を開催せり。

十月十七日(月)午後六時より時間嚴
守にて開會劈頭宮城遙拜、皇軍將兵に對
し一分間の感謝默禱をなし、國歌合唱後
中平副幹事長の開會の辭に依り直ちに吟
詩組舞に移り、大阪高等醫專初め、諸學
校の應援出吟並びに關西吟詩同好會本部
より師範、准師範の特別出吟等あり、そ
の間本部宮崎副會長、田淵幹事長の挨拶
あり、聽衆は全く大會の雰圍氣の中に侵
り、閉會近くにして尙續々として會場に
參集する狀態で、後十時官幹事の閉會の
辭、聖壽の萬歳三唱ありて、文字通り大
盛況裡に無事終了せり。

尙十月二十三日(日)中ノ島公會堂に
於ける全關西吟詩大會には、當部より政
三田淵久君が代表出吟せり。

因みに同部では、今回本學政治科に入
學せる皇國吟詩組舞至心流師範小坂雄組
氏の指導の下に、組舞の練習をなしてゐ
るが、十一月には同氏に依り猛練習をな
す筈に付き、希望者は至急幹部迄申出ら
れ度し。

俳句部(專門部一)

昭和十三年十月十六日

大阪外國語學校俳句部、關西大學俳句
部合同句會を、長柄國分寺に開催す。

外語俳句部

藤原 昇、澤井義三、島津 亮、山中

佐近衛、高橋光彦、伊東武治

本學俳句部

俳句部指導者 井上白文地先生

(先輩) 宇都宮杉男、(部長) 安藤

みちを、笠原國男、六車 寛、宗光山

雲城、村越英男、薄 晚秋、森田正治

秋田三四郎

當日部員代表句左の通り

傷兵等茶をなめ萩の園をほめ 宇都宮杉男

髮油にははせ霧の坂をふむ 安藤みちを

菖絲萌えゆたりと蛇の腹うねる 笠原國男

白日下駄々と兵馬やせゆく 村越英男

小休止吾子が人形をひしと抱き 薄 晚秋

曳丸彈鐵帽の紐をかたくせり 六車 寛

武人の征く服つけて明けそみぬ 宗光山雲城

乾竿に傘も乾せり朝日さす 森田正治

重砲の彈道ゆるくカメラ追ふ 秋田三四郎

記憶力短期増進劑

成績向上を願ふ人 記憶力鈍い人
不斷に頭を使ふ人 學生事務家に
大好評の良藥御願ひす
本劑は弊國の家傳高貴漢藥なれば絕對副作用なく
藥効には充分の確信を有し學生諸君に推奨します
無代進呈 説明書 本廣告に依る旨御附記を乞ふ
定價 九百粒 瓶 九百粒 瓶 九百粒 瓶
千八百粒 瓶 千八百粒 瓶 千八百粒 瓶

早水藥草研究園
大阪府西區立寄堀北通一ノ七つち橋北詰
橋寄大阪一〇九九二八

北陸及び北海道遊説

(一部辯論部)

(昭和十三年九月號續) 二十二日。明方の車窓に映る北海道の風光。其の美しき空と、爽やかな緑の中に、此の土地を之迄も長く開拓された、明治の開拓者達の勞苦に思ひを致す。彼等が開拓し、克服した、自然の猛威を思ひ、民族の樂土が一日にして成らず、而も永い間の努力に依つて、斯くも美しく成り得た事に深き感慨を覚える。實に内地と同様否それ以上、岡の上、小山の頂上迄も美しく探り開かれ、其處には燕麥、馬鈴薯、豆類甜菜、等の農作物が頼もしくも豊かな成長を示して居て呉れる。午後三時頃札幌に到着す。札幌は石狩大平野の西南隅に位し、豊平川の清流に沿ふて、街衢宏壯整然として碁盤の目の様な街路と、兩側に繁るアカシヤとは札幌を訪れた我々に取つて忘れ難き印象の一つである。本より政治、教育の中心地にして、東京に、京都を交ぜた様な實に感じのよい市街である。農學部附屬の植物園を見學す。幽邃閑雅な一仙境である。

北海道自治行政、植民政策、アイヌ族の研究、朝鮮民族に就いて」等有益なるお話を承り、意見を交換す。午後五時、詩の部、札幌に別れを告げ、定山溪に向ふ。

△二十三日。午前九時定山溪を發ちて大會地旭川に一路突き進む。車中沿道の山野の風光、特に農作物牧畜業等の狀況を觀察し乍ら午後二時半頃旭川に着く。旭川新聞社の方のお出迎へあり。驛前宮越屋旅館に入る。例の如く、二流の流旗は玄關口と横手大通りに翻翻として躍り旭川市民に異常の關心を投げ掛ける。

旭川新聞を手に取れば、既に、「關西大學辯論部主催、學生講演大會開催す、云々。」との趣旨の社告が出て居る。旭川新聞社々長田中秋聲氏は本學岩崎教授の知己にして同教授の御依頼により、斯くも有力なる後援を承く。田中氏の厚意に一同感激する。午後五時より田中氏招待の座談會に出席すべく北海ホテルに臨む。市長、道會議員、師範學校々長等、數名の名士列席の下に意義深き座談會は開催された。學術狀態北海道より見たる内地の學生、北海道認識の是正方法、學生と教養問題等、有意義なる意見を交換す。

△二十四日。午前中近文のアイヌ部落を見學す。會長と共に記念撮影の後アイヌの娘さん等に種々の話を聞く。アイヌの娘と馬鹿にする勿れ。明眸皓齒、心齋橋のモダンガールも、ハイヒールを脱いで逃げる程だ。言葉は我等の大阪辯が恥かしい位、餘程標準語に近い。服裝は何等内地人と變り無し。自然的推移の中に斯くも優秀なる大和民族に同化されつゝありとは言へ、反面、亡び行く民族の悲哀に同情を寄す。現在人數五六千人に過ぎずと。中には

天皇陛下のお召しに應じて出征されし者もあると聞く。

午後六時頃大會場、市民集會場に臨む。聽衆は既に半分以上の席を占め、今や遅しと待ち構へて居る。午後七時前旭川新聞社政治部長の開會の辭にいよいよ大會は開かる。聽衆約一千人餘り旭川市にて學生辯論大會は申すに及ばず他の講演會にも稀なる大盛會なりとぞ。隊員一同學生としての眞摯なる態度にて、我が關西大學文化の爲に、大にしては全國學生社會の爲に、市民の熱誠に答へて堂々の舌鋒を振ふ。

天皇陛下萬歲、陸海軍萬歲の三唱に、尙去りやらぬ興奮を抑へつゝ名残り惜しき閉會とする。金澤大會に於いても同様の傾向を認めたるが、聽衆の層は中年以上の年輩者多く、終始北國人特有の冷靜なる態度にて傾聴さる。蓋し此の未曾有の非常時局に際して、將來日本を以つて立つ我等青年學徒に關心を寄せられしものか。一層の奮氣と發憤を痛感する。

旭川より歸途に就く豫定なりしが國立公園阿寒の方へ廻る。(中略)

△三十日。午前九時三十分東京上野着驛頭に前辯論部指導教授古川武先生の健顔を拜す。午後五時古川先生の御招待に應じて再會し快談盡くる所なし。

△三十一日。朝此處に遊説隊を解散して自由行動に移る。

思へば、我等は北陸より東北、北海道へ迄も、日頃我等の抱負を披瀝し、信念に訴へて、以て學生辯論の社會的使命を果さんとして遊説して來た。時恰も、世は擧げて非常時局に直面して居る。我等の責務は一層重大だつた。我等は終始眞劍に皇國を思ふ一念を學徒としての立場より、自己の最善を盡くして叫んで來たつもりである。必らずや、我等の一念通じて、北陸の地、或は北海道の地に於いて、我が關西大學文化の一端を移植し、その認識を深めるのに役立ち得た事と確信する。

最後に我等の此の遊説に色々と御懇導と御鞭撻をお與へ下さつた諸先生方、先輩諸氏、學友會委員、學友諸兄に深甚なる感謝の意を捧げる次第である。

(田村記)

校友各位に御依頼

昭和十三年度校友會員名簿は来る十二月中旬發行の豫定で目下準備中でありますが、何分一萬五千の校友各位の中には住所、職業等の異動の御通知に接せぬ向もあり、名簿の整理は喫緊事としては是非とも各位の御協力に俟たねばなりません。何卒各位の身上御移動の際は忘れなく校友會宛御通知下さると共に、知友諸君の御移動もお手数乍ら御一報願へれば幸甚です。

尚校友會費未納の方は振替貯金を御利用御拂込み下さい。

振替口座大阪五五五九四番

關西大學校友會

校友會會則

第一章 總則

- 第一條 本會ハ關西大學校友會ト稱ス
- 第二條 本會ハ會員相互ノ交誼ヲ厚クシ會員ト關西大學トノ關係ヲ密ニシ關西大學ノ隆盛ヲ計ルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ其目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、學報ノ配付
 - 二、會員名簿ノ發行
 - 三、本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項爲メアリタル者ハ本部ハ關西大學本部内ニ置キ支部ヲ必要ノ地ニ設置ス

第二章 會員

- 第五條 左ノ資格ヲ有スル者ヲ會員トス
 - 一、關西大學、元關西法律學校卒業者
 - 二、關西大學役員及教職員
 - 三、推薦校友
- 第四條 附屬關西甲種商業及第二商業學校職員
- 五、關西大學元役員元教職員ニシテ評議員會ニテ推薦セラレタル者
- 第六條 會員ハ會費トシテ毎年六月末日迄ニ金參圓ヲ納ムルモノトス
 - 但シ一時ニ五拾圓納入シタル者ハ爾後ノ會費ヲ徴セス
- 第七條 會員ニシテ本會ノ體面ヲ毀損スル行爲アリタル者ハ總會ノ議決ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

第三章 役員

- 第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 副會長 一名
 - 常議員 二十名 評議員 若干名
- 第九條 會長ニハ關西大學學長ヲ推ス
- 第十條 副會長ハ常議員會ニテ推薦ス其任期ハ二ケ年トス
- 第十一條 評議員六十名ハ總會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ選舉ス其任期ハ二ケ年トス
- 第十二條 支部ノ役員ハ其任期中ハ職務上評議員タルモノトス
 - 但シ其支部ニ役員二名以上アル時ハ代表者ニ之ニ當ル
- 第十三條 常議員ハ評議員會ニテ京阪神在住評議員中ヨリ互選ニテ之ヲ定ム其任期ハ二ケ年トス
- 第十四條 會長ハ會務ヲ統轄シ總會ニ於テ議長トナル
- 第十五條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第十六條 常議員ハ會務ヲ處理ス
- 第十七條 常議員ハ互選ニテ三名ノ常任幹事ヲ置ク
- 第十八條 評議員ハ左ノ會務ヲ審議ス
 - 一、常議員選舉ニ關スル事項
 - 二、會則變更ニ關スル事項
 - 三、會則第五條第五項ノ會員推薦ニ關スル事項
 - 四、其他重要ナル事項

第四章 總會

- 第十七條 定時總會ハ毎年一回大阪ニ於テ之ヲ行フ
- 臨時總會ハ常議員會ニテ必要ト認メタルトキ開催スルコトヲ得
- 第十八條 左ノ事項ハ之ヲ定時總會ニ提出シ其承認ヲ受クルモノトス
 - 一、前年度收支決算
 - 二、財産目録
 - 三、事業報告
- 第十九條 總會ノ決議ハ出席會員ノ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第五章 會計

- 第二十條 本會ノ經費ハ會費其他ノ諸收入ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二十一條 本會ニ基本財産ヲ設定シ第六條但書ニ依ル一時納入會費並ニ基本財産ノ造成ヲ目的トスル寄附金品ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二十二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月末日ヲ以テ終ル
- 第六章 支部
- 第二十三條 本會支部ハ支部規則會員ノ住所氏名及職業ヲ具シテ本會本部ニ報告シ常議員會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
- 前項ニ異動生シタル場合ハ本會本部ニ報告スルモノトス
- 第二十四條 本會支部ニハ一定ノ事務所ヲ設ケ役員ヲ置クモノトス

附則

- 第二十五條 本會則ノ變更ハ評議員ノ過半数ノ同意及總會出席者三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第二十六條 本會則ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ實施ス (昭和十三年二月十四日改正)

大正十一年六月十五日創刊
昭和十三年十一月十日印刷
昭和十三年十一月十五日發行

發行所 關西大學學報局
大阪市東區川島町二丁目十二番地
電話 四六二二

印刷所 谷口印刷所
大阪市東區川島町三丁目十五番地
電話 四六二二

發行所 神屋敷民藏
大阪市東區川島町三丁目十五番地
電話 四六二二

關西大學
天六學舍 大阪市東區川島町中通
電話 四六二二
千早山學舍 大阪市外千早山
電話 四六二二

關西大學學會發行

關西大學研究論集

第八號 法律・政治篇

(昭和十三年十一月發行)

- 天皇の特種なる御地位……教授 吉田 一枝
國家の前學問的理解……教授 岩崎 卯一
國家承認の所謂「相對性」……
に付て……助教授 川上 敬逸
繰上げ當選制度について教授 中谷 敬壽
保證債務と消滅時效……教授 西村 信雄
判例を中心として觀た結
納に付て……助教授 柳瀬 兼助
一人會社に就て……教授 野村 次夫
判例に現はれた手形時效 教授 安藤 光
法の解釋について……教授 和田 豐二

第八號 經濟・商業篇

(昭和十三年十一月發行)

- 戰時經濟に於ける工業組
合の使命……教授 磯部 喜一
海上賣買形態の時代的展
化に就て……教授 賀屋 俊雄
本邦海運政策の動向に就
て……教授 河村 宜介
季節秋と商業との關係に
就て……教授 瀧澤喜子雄
ハーバラー景氣上昇部轉
向面理論の批判……教授 中川庸太郎
Geopolitique の紹介……教授 中村良之助
簿記會計方法の損益に就
て……教授 西村勝太郎
英國重商主義の發展段階
とその特質……教授 矢口孝次郎

第八號 文學・哲學篇

(昭和十三年十一月發行)

- 聖なる實在……教授 片山 正直
道德的自覺の論理……教授 武内 省三
其角の俳諧觀……教授 飯田 正一
摩羅羅考……教授 高橋 盛孝
ユダヤ民族建國義考……教授 賀來 俊一
チヨースラーの時代に於け
る英吉利の世相……教授 田邊 清市
Hero and Leander 覺書(三) 教授 村上 喜貞

第一號 昭和九年十月發行
第二號 昭和十年二月發行
第三號 昭和十年六月發行
第四號 昭和十一年一月發行
第五號 昭和十一年七月發行
第六號 昭和十一年十二月發行
第七號 昭和十二年一月發行

定價 各壹圓
送料 十錢

發賣所 甲 文堂書店
大阪市東淀川區長柄中道
振替六二五二〇番